

**令和2年度（第1回）
福岡市総合図書館運営審議会**

日時：令和2年10月20日（火）

午後3時00分～4時30分

場所：福岡市総合図書館 第1会議室

〔次第〕

1 開会

総館長挨拶

2 議事

議題1 会長・副会長選出について

議題2 令和元年度事業報告について

3 報告事項

報告1 令和元年度福岡市総合図書館の運営に関する評価について

（福岡市総合図書館新ビジョン推進に関する点検評価会議の報告）

報告2 新型コロナウイルス感染拡大防止について

報告3 電子図書館について

4 閉会

※ご希望される委員を対象に、閉会后、館内見学会を開催します。

（30分程度）

令和元年度事業報告について

I 利用状況

図書館全体	・ ・ ・ ・ ・	1
図書館資料部門	・ ・ ・ ・ ・	2
文書資料部門	・ ・ ・ ・ ・	10
映像資料部門	・ ・ ・ ・ ・	11

II 事業概要

図書館全体	・ ・ ・ ・ ・	13
図書館資料部門	・ ・ ・ ・ ・	16
文書資料部門	・ ・ ・ ・ ・	19
映像資料部門	・ ・ ・ ・ ・	22

I 利用状況

図書館全体

○館別開館日数

開館日数について、令和元年6月24日から同年7月1日まで図書館業務システムの機器入替のため全館休館を行った。また、総合図書館は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年2月27日から同年3月20日まで臨時休館を行った。西部図書館は建物の点検等が入ったため他の分館より開館日数が少ない。

(単位：日)

区 分	令和元年度	平成30年度	平成29年度
総合 図書館	271	290	290
東 図書館	334	341	339
和白 図書館	283	293	289
博多 図書館	283	291	289
博多南図書館	283	293	289
中央 図書館	283	293	289
南 図書館	283	293	289
城南 図書館	283	293	289
早良 図書館	283	293	289
西 図書館	283	293	289
西部 図書館	282	292	289

○総合図書館及び分館の入館者数

区 分	令和元年度	平成30年度	平成29年度
総合 図書館	780 千人	850 千人	892 千人
東 図書館	438 千人	286 千人	—
和白 図書館	126 千人	118 千人	—
博多 図書館	90 千人	75 千人	—
博多南図書館	105 千人	87 千人	—
中央 図書館	180 千人	140 千人	—
南 図書館	174 千人	134 千人	—
城南 図書館	225 千人	173 千人	—
早良 図書館	141 千人	110 千人	—
西 図書館	191 千人	147 千人	—
西部 図書館	173 千人	129 千人	—

*平成30年度の分館入館者数は、計測機器の調整を行ったことから平成30年8月～平成31年3月の8ヶ月間の計測人数の概算を表示している。

図書資料部門

1 個人貸出

○新規登録者数

総合図書館と分館とアミカスを合わせた一日平均の新規登録者数は、前年度と比較して3.6%の減となっている。

(単位：人)

区 分	令和元年度		平成 30 年度		平成 29 年度	
	年度計	一日平均	年度計	一日平均	年度計	一日平均
総合図書館	7,503	28	8,448	29	9,938	34
分 館	14,620	51	15,823	53	15,831	54
アミカス	405	1	441	1	438	1
合 計	22,528	80	24,712	83	26,207	89

*科学館では、新規登録は行っていない。

○貸出利用者数

総合図書館と分館とアミカス・科学館を合わせた一日平均の貸出利用者数は、前年度と比較して1.1%増となっている。

(単位：人)

区 分	令和元年度		平成 30 年度		平成 29 年度	
	年度計	一日平均	年度計	一日平均	年度計	一日平均
総合図書館	301,590	1,113	330,387	1,139	343,109	1,183
分 館	819,291	2,845	827,870	2,783	821,386	2,794
アミカス・科学館	58,003	211	56,145	198	46,801	165
合 計	1,178,884	4,169	1,214,402	4,120	1,211,296	4,142

*少年科学文化会館が平成 27 年度 3 月末に閉館し、科学館が平成 29 年 10 月に開館した。

○貸出冊数

総合図書館と分館アミカス・科学館を合わせた一日平均の貸出冊数は、前年度と比較して0.5%の増となっている。

(単位：冊)

区 分	令和元年度		平成 30 年度		平成 29 年度	
	年度計	一日平均	年度計	一日平均	年度計	一日平均
総合図書館	1,123,960	4,147	1,242,075	4,283	1,304,095	4,497
分 館	2,704,610	9,391	2,739,367	9,208	2,756,314	9,375
アミカス・科学館	129,802	472	127,531	449	106,637	376
合 計	3,958,372	14,010	4,108,973	13,940	4,167,046	14,112

*少年科学文化会館が平成 27 年度 3 月末に閉館し、科学館が平成 29 年 10 月に開館した。

○自動貸出機・自動返却機の利用状況

自動貸出機の利用状況は、前年度と比較して0.2%の減、自動返却機の利用状況は、1.9%の増となっている。

(単位：冊／%)

区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
自動貸出機 利用冊数	1,891,946 / 49.4%	1,976,379 / 49.6%	2,047,383 / 50.4%
自動返却機 利用冊数	1,887,671 / 49.3%	1,887,973 / 47.4%	1,889,804 / 46.5%

○予約件数

予約件数は、前年度と比較してほぼ横ばいとなっている。

そのうちインターネットによる予約は735,618件で、予約件数全体の79.5%となっている。

(単位：件／%)

区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
インターネット	735,618 / 79.5%	688,129 / 78.0%	650,990 / 77.3%
館内検索機	84,046 / 9.1%	83,301 / 9.5%	83,327 / 9.9%
窓口・電話受付	105,584 / 11.4%	110,476 / 12.5%	108,327 / 12.8%
合 計	925,248 /100.0%	881,906 /100.0%	842,684 /100.0%

※平成19年10月からインターネット予約の開始

○図書館以外に設置している図書返却ポスト及び返却拠点の利用状況

利用者の利便性の向上を図るため、図書館外への図書返却ポスト及び返却拠点の設置を進めており、平成30年度からは13箇所で行った。

(単位：冊)

区 分	令和元年度		平成 30 年度		平成 29 年度	
	合 計	一日平均	合 計	一日平均	合 計	一日平均
地下鉄博多駅	44,476	124	45,461	126	46,315	128
地下鉄別府駅	19,265	67	20,918	71	20,816	85
情報プラザ	36,321	101	38,214	106	35,645	100
入部出張所	8,387	37	9,636	26	10,817	30
西鉄薬院駅	6,926	28	4,371	24	7,571	35
地下鉄西新駅	16,788	59	16,539	57	17,319	59
福岡県立図書館	6,048	23	5,874	21	6,157	21
木の葉モール橋本	62,202	171	65,169	179	64,249	177
ふくふくプラザ	15,249	45	14,373	42	13,117	38
九州がんセンター	5,641	26	6,216	17	4,928	14
合 計	221,303		226,771		226,934	

※西鉄薬院駅は平成 29 年 10 月 31 日をもって一時閉鎖，平成 30 年 7 月 2 日より再開

※九州がんセンターは，平成 28 年 4 月 1 日取り扱い開始

※その他，福岡市男女共同参画推進センター（アミカス）図書室，公益財団法人博多駅地区土地区画整理記念会館図書室，福岡市科学館の 3 か所においても，返却受付を行っている。

○「有料宅配サービス」の利用状況

自宅等で予約した図書の受け取りができる「有料宅配サービス」については，前年度に比べ 11.7%の増であった。

(単位：冊)

区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
利用冊数	86	77	102

○福岡都市圏図書館の広域利用

平成 13 年度から福岡都市圏広域行政推進協議会の共同事業として，都市圏 17 市町 33 図書館では広域利用を行っている。

(単位：冊)

区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
福岡市の図書館における 福岡市民の貸出冊数	3,842,932	3,982,597	4,034,471
他市町の図書館における 福岡市民の貸出冊数	628,490	673,375	671,544
都市圏 33 図書館全体の 貸出冊数	10,579,324	11,292,686	11,356,782

*福岡市の図書館には，アミカス図書室を含む。

○相互貸借利用状況

福岡県内外の公共図書館等と貸借を行い，図書資料の提供を行っている。

(単位：冊)

区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
借 入	7,801	9,417	8,414
貸 出	4,235	5,026	5,266
合 計	12,036	14,443	13,680

○大学図書館とのネットワーク

令和 2 年度 4 月 1 日現在，福岡市内にある 8 大学 12 図書館との協力により，専門者や学術書等の資料の提供を行っている。

(単位：冊)

区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
借 受	177	232	188
貸 出	36	231	143
合 計	213	463	331

○議会図書室との連携

平成 27 年 2 月から、市議会議員等の調査・研究を支援するため、議会図書室へ図書資料の貸出を行っている。

(単位：件，冊)

区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
利用件数	23	12	24
貸出冊数	32	16	38

2 団体貸出

○団体貸出登録状況

団体貸出では、登録団体（公民館、留守家庭子ども会、病院や高齢者施設など）数は年々増加している。

(単位：団体，人)

区 分	令和元年度 (令和2年3月31日)	平成 30 年度 (平成31年3月31日)	平成 29 年度 (平成30年3月31日)
登録団体数	415	396	386
団体会員数	93,546	85,660	83,791

○団体貸出状況（配本冊数）

(単位：冊)

区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
児 童 書	176,127	180,658	189,062
一 般 書	31,021	31,848	34,178
合 計	207,148	212,506	223,240

3 調査相談

○図書資料の調査相談件数

レファレンス等の一日平均の調査相談件数は、前年度と比較して 2.5%減となった。

(単位：件)

区 分	令和元年度		平成 30 分年度		平成 29 年度	
	年 度 計	一日平均	年 度 計	一日平均	年 度 計	一日平均
レファレンス 利用案内	95,504	334	102,439	345	97,201	331
	90,997	318	96,226	324	95,818	326
合 計	186,501	652	198,665	669	193,019	657

○国立国会図書館のレファレンス協同データベース登録状況

平成 25 年 5 月から開始した国立国会図書館レファレンス協同データベースへの当館のレファレンス事例登録状況は、前年度比 2.7%減、事例被参照数は、63.5%増となっている。
(単位：件)

区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
事例登録数	110	113	100
事例被参照数	212,402	129,949	133,102

※全国の図書館等がレファレンス事例を登録し、図書館員や一般利用者に提供するシステム

○国立国会図書館デジタル化資料送信サービス利用状況

国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手困難な資料を対象に提供を行った。

区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
利用者数（人）	202	160	140
複写タイトル数（件）	287	515	278
複写枚数（枚）	2,668	2,632	3,280

○利用者用インターネット情報検索端末サービス

総合図書館 2 階のパソコンルームにインターネットが利用できるパソコンを 5 台設置し、利用者自身がインターネットで情報を検索出来るサービスを実施した。

(単位：人)

区 分	令和元年度		平成 30 年度		平成 29 年度	
	年度計	一日平均	年度計	一日平均	年度計	一日平均
利用者数	5,756	21	7,095	25	7,528	26

○ホームページの複写サービス

インターネット情報を利用者の調査研究に役立てるため、同資料を収集し、複写サービスを提供した。

(単位：件)

区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
利用件数	9	27	22

4 読書行事

○概要

総合図書館では、子ども向けのおはなし会や体験講座、大人向けの講座など、様々な幅広い層に向けイベントを、分館においては、地域の特色を生かしたテーマや独自の視点による多様なイベントを実施し、709回の開催で延べ17,605人の参加を得た。

(1) 総合図書館

○読書活動ボランティア講座

地域における子どもの読書活動を推進するため、ボランティア養成講座として読み聞かせ、ストーリーテリングの2コースを実施した。

平成28年度より経験者コースに、受講後一定期間(約3か月半)が経過した後、受講者のフォローアップを目的とした講座を追加実施した。

(単位：回，人)

区 分	令和元年度		平成30年度		平成29年度	
	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数
絵本の読み聞かせコース(初心者コース)	8	343	8	330	8	382
ストーリーテリングコース(経験者コース)	6	138	7	161	7	176
合 計	14	481	15	491	15	558

○おはなし会

幼児や小学生・保護者を対象に読み聞かせや紙芝居、わらべうたなどを実施した。また、大人を対象としたストーリーテリングを新たに実施した。

(単位：回，人)

区 分	令和元年度		平成30年度		平成29年度	
	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数
おはなし会	87	3,146	98	3,810	99	3,437
こぐまちゃんおはなし会	11	414	12	745	12	765
こどもの日特別おはなし会	1	79	1	131	1	148
一日おはなし会	1	123	1	143	1	207
クリスマス特別おはなし会	1	245	1	247	1	284
大人のためのおはなし会(ストーリーテリングのタベ)	5	137	4	123	4	290
合 計	106	4,144	117	5,199	118	5,131

○布の絵本講習会

手づくり布の絵本作成の講習会を実施した。

(単位：回，人)

区 分	令和元年度		平成 30 年度		平成 29 年度	
	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数
布の絵本講習会	12	492	12	714	12	470

○小学生読書リーダー養成講座

小学5～6年生を対象に、読書の意義、図書館の本の探し方、絵本の読み聞かせ等の講習を行い、学校図書館活動の実践での活用を図ることを目的に養成講座を実施した。

(単位：回，人)

区 分	令和元年度		平成 30 年度		平成 29 年度	
	回数	認定者数	回数	認定者数	回数	認定者数
小学生読書 リーダー養成講座	3	222	3	231	3	263

○夏休み図書館の達人講座

小学4～6年生を対象に、夏休みの自由研究等にも役立つ図書館を利用した調べ学習の方法を学ぶことで、図書館の利用に関する基本的知識の習得を図ることを目的に講座を実施した。

(単位：回，人)

区 分	令和元年度		平成 30 年度		平成 29 年度	
	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数
夏休み図書館 の達人講座	2	33	2	22	2	16

○福岡市ブックスタート事業

乳幼児の4か月児健診の機会に赤ちゃんに絵本を手渡すブックスタート事業で、絵本の読み聞かせの楽しみ方や赤ちゃんとの遊び方等を説明、実演するボランティアの研修会を実施した。

(単位：回，人)

区 分	令和元年度		平成 30 年度		平成 29 年度	
	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数
「絵本ふれあい タイム」ボラン ティア研修会	1	107	1	71	1	66

○読書ノートの配布

読んだ本の感想や読みたい本等をメモする読書ノートを配布し、子どもの読書を支援した。

(単位：回，人)

区 分	令和元年度		平成 30 年度		平成 29 年度	
	回数	延べ配布人数	回数	延べ配布人数	回数	延べ配布人数
読書ノートの配布	15	473	14	384	27	557

(2) 分館

○おはなし会 (分館合計)

(単位：回，人)

区 分	令和元年度		平成 30 年度		平成 29 年度	
	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数
どようおはなし会	405	5,715	484	7,288	487	7,393
赤ちゃんおはなし会	110	4,391	175	5,921	182	5,571
※その他のおはなし会	41	1,547	41	1,300	37	1,328
合 計	556	11,653	700	14,509	706	14,292

※「どようおはなし会」「赤ちゃんおはなし会」以外の分館のおはなし会は、様々な名称があるため、「その他のおはなし会」として集約している。

5 学校図書館支援センター

○学校図書館支援センター

各学校が、学校図書館を効果的に運用できるよう、平成 26 年 9 月に、総合図書館内に学校図書館支援センター準備室を設置した。

平成 27 年 4 月から本格稼働し、「情報」「ひと」「もの」の観点から支援を行った。

区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
相談業務 (件)	200	136	108
要請訪問 (回)	32	36	5
計画訪問 (回)	69	14	106
登録校数 (校)	小学校 132 中学校 40	小学校 127 中学校 35	小学校 122 中学校 32
貸出冊数 (冊)	小学校 7,177 中学校 311	小学校 5,641 中学校 497	小学校 5,768 中学校 260

※平成 27 年 4 月～ホームページを開設し、情報を配信中

※平成 28 年 9 月～中学校へ学習支援用図書の出借を開始

文書資料部門

○文書資料の調査相談件数

文書資料部門では、利用案内件数はほぼ横ばいだが、一日平均のレファレンス件数は、前年度と比較して14.8%減少している。

(単位：件)

区 分	令和元年度		平成30年度		平成29年度	
	年度計	一日平均	年度計	一日平均	年度計	一日平均
レファレンス 利用案内	4,033	15	4,915	17	5,061	17
	2,261	8	2,953	10	3,780	13
合 計	6,294	23	7,868	27	8,841	30

<主な普及活動>

○歴史的公文書の展示

歴史的公文書に対する市民の理解と関心を深めてもらうための展示を行った。

(単位：回，人)

区 分	令和元年度		平成30年度		平成29年度	
	回数	延べ来場者数	回数	延べ来場者数	回数	延べ来場者数
歴史的公文書 の展示	1	4,876	1	715	1	592

○古文書学講座

古文書を初めて読もうとする市民を対象に、古文書学の基礎を学ぶ講座を実施した。

(単位：回，人)

区 分	令和元年度		平成30年度		平成29年度	
	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数
古文書学講座	4	180	4	183	4	167

○文学館事業（企画展示）

福岡ゆかりの文学者や文学作品、福岡での様々な文学活動を紹介する展示を行った。

(単位：回，人)

区 分	令和元年度		平成30年度		平成29年度	
	回数	来場者数	回数	来場者数	回数	来場者数
企画展	1	3,269	1	764	1	4,329

○文学館事業（講座）

福岡ゆかりの文学者や文学作品、福岡での様々な文学活動に関する講座を実施した。

（単位：回，人）

区 分	令和元年度		平成 30 年度		平成 29 年度	
	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数
企画展関連 講座	3	80	1	24	2	162
読書講座	0	0	0	0	2	60
市民公開講座	1	43	1	50	5	184
赤煉瓦夜話 令和元年度～「もも ちはま草紙」に改称。	5	262	5	180	5	327
その他	2	11	4	14	2	16
合 計	11	396	11	268	16	749

映像資料部門

○入場者数

映像ホール・シネラの一回平均の入場者数は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館等の影響により、前年度と比較して3.0%減少して、ミニシアターの一回平均の入場者数は、前年度と比較して20.0%減少している。

（単位：人）

区 分	令和元年度		平成 30 年度		平成 29 年度	
	年度計	一回平均	年度計	一回平均	年度計	一回平均
映像ホール・シネラ	24,374	65	28,368	67	26,901	61
ミニシアター	5,276	20	7,284	25	6,938	24
合 計	29,650	85	35,652	92	33,839	85

○貸出数

ビデオ・CD等の一日平均の貸出数も臨時休館等の影響により、前年度と比較して3.2%減少している。

（単位：点）

区 分	令和元年度		平成 30 年度		平成 29 年度	
	年度計	一日平均	年度計	一日平均	年度計	一日平均
ビデオ等貸出	6,463	24	7,974	27	9,666	33
CD等貸出	34,623	128	38,334	130	40,934	141
合 計	41,086	152	46,308	157	50,600	174

○映像ホール・シネラ上映実施状況

映像ホール・シネラの運営等については、図書館と映像ホール・シネラ実行委員会が共催して行っている。

- ・通常上映事業：図書館で収集しているアジア映画や日本映画の収蔵作品を上映する。
毎週水曜日～日曜日（1日1回～2回上映）
- ・特別企画上映事業：他の映像関係団体等との共催による企画や、福岡で上映される機会の少ない映画を特集的に上映する。
- ・貸館上映事業：映像文化の振興・普及のため自主上映（非営利に限る）を行う希望者に、月末週の土曜日と日曜日のみ、映像ホール・シネラを有料貸出している。

（単位：回，人）

区 分	令和元年度		平成 30 年度		平成 29 年度	
	回数	延べ入場者数	回数	延べ入場者数	回数	延べ入場者数
通常上映	169	9,611	186	10,775	127	6,147
特別企画上映 (イベント込)	201	14,045	218	17,037	298	19,773
貸館上映	10	718	17	556	15	981
合 計	380	24,374	421	28,368	440	26,901

○講演会実施状況

特別企画上映事業に関連する各種講演会を実施した。

（単位：回，人）

区 分	令和元年度		平成 30 年度		平成 29 年度	
	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数
講演会	6	806	2	93	3	288

○展示事業

区分	令和元年度
展示事業	① 展示名：「レスター・ジェームス・ピーリス監督とスリランカ映画」 特集上映作品ポスター集 開催期間：4月3日～4月21日 ② 展示名：「スタンス・カンパニーの軌跡」関連資料展示 開催期間：1月8日～1月26日

○館外上映事業

区分	令和元年度
館外上映事業	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

II 事業概要

図書館全体

1 分館整備事業

事業名	内 容	実 施
早良南図書館開設準備	令和3年11月開館予定の早良南地域交流センター内に設置する早良図書館について、関係部署及び関係事業者と図書館に関する設計等に関して協議を進めたほか指定管理者制度を導入することを決定した。	関係部局（市民局等）と継続協議
南図書館整備事業（建替）	南市民センター建替のため、南図書館の休館対応や図書館に関する設計等に関して、関係部署及び関係事業者と協議を進めた。	関係部局（市民局等）と継続協議

2 快適な空間づくり事業

事業名	内 容	実 施
やすらぎと交流の場づくり	平成28年4月から総合図書館エントランスホールに「語らいの場」を設置するとともに、季節に応じたイベントを実施した。	合計約40のイベントを実施

3 効率的で効果的な図書館運営

事業名	内 容	実 施
指定管理者制度の導入	総合図書館（建物管理等）及び東図書館（選書を除く図書館サービス等）について、指定管理者制度を導入しモニタリングを3回、選定・評価委員会を開催して各指定管理業務の評価を行った。	総合図書館 平成28年4月1日～ 東図書館 平成28年6月4日～

4 財源確保に係る事業

事業名	内 容	実 施
ふくおか応援寄付	図書購入への活用を目的に、「ふくおか応援寄付制度」において寄付の募集を行った。	令和元年度実績 187,000円
駐車場有料開放	総合図書館駐車場を事業者に貸付け、閉館時間帯等に有料開放することで、財源確保に努めた。	令和元年度実績 6,129,864円

5 利用時間の拡大

事業名	内 容	実 施
開館時間，休館日の見直し	平成28年度から総合図書館について開館時間の延長，東図書館について開館日・開館時間の拡大を行った。 総合図書館：10：00～20：00（1時間延長） 東図書館：9：00～20：00（3時間延長），休館日：最終月曜日	総合図書館 平成28年4月1日～ 東図書館 平成28年6月4日～

6 市民との共働事業

事業名	内 容	実 施
図書館ボランティアとの共働	市民活動の場を提供するため，余暇（月2回，4時間以上）を活用して活動できる市民ボランティアを受け入れた。	66名 総活動時間 2,070時間
インターンシップ生の受入	九州インターンシップ推進協議会等からの受入れ協力依頼に対して，受け入れを行った（平成28年度から）。	2名受入

7 研修・危機管理対策

事業名	内 容	実 施
基礎研修	接遇・クレーム対応，ユニバーサルサービス，業務改善及び防災等に関する基礎研修を実施した。	令和元年度実績 5回実施
専門研修	図書館職員として専門知識や技術向上を目指す研修に職員を派遣した。	令和元年度実績 派遣回数12回 参加職員延47名
防災避難訓練	火災・地震を想定した避難誘導訓練及び救命器具等（AED・心肺蘇生法・水消火器）操作訓練を実施した。	令和2年1月31日 参加職員127名

8 見学・視察等受入事業

事業名	内 容	実 施
見学・視察受入	小学校，中学校，高校，各種学校他，自治体，図書館関連機関等からの受け入れ要請に対し，受け入れを行った。	小中高，大学 延21校 1,285名 その他 7件 26名
バックヤードツアー	見学視察が比較的少なくなる11月から翌年2月にかけて，一般および親子を対象とする図書館の裏側を紹介するツアーを実施した。（一般2回，親子2回）	一般 16名 親子15組39名
職 場 体 験	中学校からの受け入れ要請に対し，受け入れを行った。	6校 18人

9 情報発信事業

事業名	内 容	実 施
メールマガジン・SNSの活用	FacebookやTwitter，LINE等による情報発信，メールマガジンの配信（月1回）を行った。	Facebook等 平成28年5月30日～ メールマガジン 平成28年6月～
ホームページの改修	総合図書館ホームページをより見やすく，利用しやすくするため，レファレンスページの改修，レイアウトや操作性の改善に取り組んだ。	随時実施

10 新ビジョンの推進

事業名	内 容	実 施
新ビジョンの進行管理と評価	福岡市総合図書館新ビジョンの推進に向けて，平成30年度の取組状況についての評価を行い，その内容を公表した。また，令和元年度から令和5年度までの新ビジョンの後期事業計画を策定し，その内容を公表した。	令和元年8月28日 点検評価会議 を開催

図書資料部門

1 図書資料の収集、整理・保存

○収集資料の充実

事業名	内 容	実 施
資料収集の充実	公共図書館としての役割を発揮するため、図書資料の収集方針の見直しを行い、新たに「福岡市総合図書館図書資料部門収集方針」を策定した。分館においては、平成28年5月より、地域の実情に合わせて分館毎の収集方針を作成し、毎年度更新することとした。	平成27年 10月1日 から施行

○図書資料の所蔵状況

区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度	
図 書	1,997,353 冊	1,978,558 冊	1,956,063 冊	
逐次 刊行物	雑誌（寄贈を含む）	1,788 種	1,775 種	1,834 種
	新聞（寄贈を含む）	214 種	207 種	214 種
	法令集追録	6 種	6 種	6 種
	国会議事録他	2 種	2 種	2 種
マイクロフィルム	24,299 巻	24,256 巻	24,208 巻	
CD-ROM, DVD-ROM	—	—	11 種	
オンラインデータベース	7 種	7 種	7 種	

※ 図書の冊数については年度末現在で、その他については翌年度4月1日現在での延べ数である。

2 レファレンスサービスの充実

事業名	内 容	実 施
電子メールによる レファレンス サービス	電子メールによるレファレンスサービスを開始した。	平成28年 8月から開始
情報提供の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① ビジネス支援として平成28年4月より、中小企業診断士による「起業・経営相談会」を開催した。 ② 医療情報の提供として「九州がんセンター講演会」をシリーズ化し実施した。 ③ SDGs (Sustainable Development Goals) (持続可能な開発目標) についての情報提供として「SDGs強化月間」中に書籍を展示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①令和元年度 63回開催 ②令和元年度 2回開催, 計117名参加

3 各種図書館間協力ネットワークの構築

事業名	内 容	実 施
国立国会図書館総合目録ネットワークへの参加	公共図書館における資料の共有化，書誌サービスの標準化と効率化を図るため，ネットワークに参加し，当館書誌データの提供や，国立国会図書館及び参加図書館の書誌データ検索を実施した。 (参加館1,150館，うち書誌データ提供館67館)	平成12年 3月から参加 平成14年 7月から当館書誌データの 提供開始
広州市図書館との協力と交流に関する覚書締結	福岡市広州市友好都市締結40周年を記念し，図書館交流事業を行った。 令和元年10月に「広州市図書館との協力と交流に関する覚書」を締結した。	7月に広州市代表団，広州図書館等を迎え交流協議を実施し，10月には広州図書館において「本と旅する福岡」展を開催した。(215冊展示)

4 読書普及活動

事業名	内 容	実 施
企画展示	各部門及び各分館において，テーマを設定し，テーマに沿った図書の展示やブックリスト配布などを行った。 なお，10月は図書館マンスとし，全館統一のテーマを定め，各部門及び各分館においてサブテーマを設定し，図書の展示等を行った。	毎月

5 モデル児童図書リストの配布

事業名	内 容	実 施
モデル児童図書リストの配布	幼児から小学5・6年生向けの図書を掲載したモデル児童図書リストの配付や掲載図書の展示，貸出を行った。	総合図書館及び分館

6 地域読書活動への支援

事業名	内容	実施
公民館等の 読書活動への支援	<p>毎年、別々に開催していた総合図書館が主催する「地域文庫交流会」と、教育委員会生涯学習課が主催する「公民館文庫活動実践報告会・交流会」について、地域のニーズを把握し、実情に合った支援を行うため、団体貸出未利用の公民館等の現状や要望等の収集、団体貸出の新規利用に向けた情報提供を行うとともに、地域文庫ボランティア相互の情報交換・交流の機会として、平成28年度より合同で開催することとした。</p>	<p>令和2年2月5日 「地域文庫交流会」及び「公民館文庫活動実践報告会・交流会」を合同開催 参加：地域文庫および公民館あわせて 13団体・18名」</p>

文書資料部門

1 文書資料の収集、整理・保存

○公文書資料の収集状況

令和元年度の公文書資料収集は、完結後 30 年経過した永年保存文書 292 冊と、保存期間が満了した有期限保存文書のうち歴史的文化的価値があると認められる 74 冊を収集し、その他保存委託文書 28 冊を受け入れた。

(単位：冊)

区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
公文書資料	394	525	429

○行政資料の収集状況

令和元年度の行政資料収集は、主に本市行政各部署が発行する刊行物等を中心に、934 冊を収集した。

(単位：冊)

区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
行政資料	934	1,104	881

○古文書資料の収集状況

令和元年度の古文書資料収集は、菅直登資料等 1,495 点の寄贈を受け、貝島栄三郎関係資料等 19 点を購入した。また、東長寺文書(四)等 464 点をマイクロフィルム収集として受け入れた。

(単位：点)

区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
古文書資料	1,978	2,406	2,144

○郷土資料の収集状況

令和元年度の郷土資料収集は、福岡市を中心とする県内の各分野にわたる図書等 928 冊を収集した。

(単位：冊)

区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
郷土資料	928	666	902

○文学資料の収集状況

令和元年度の文学資料収集は、福岡ゆかりの作家等に関する資料として、95 点を購入(受贈)した。

(単位：点)

区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
文学資料	95	82	190

○文書資料の所蔵状況

文書資料の総数は、年々増加傾向にある。

(単位：点)

区 分	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度
公文書資料(冊)	28,452	29,124	29,419
行政資料(冊)	49,945	49,014	47,913
古文書資料(点)	80,274	78,296	75,890
郷土資料(冊)	103,062	102,138	101,433
文学資料(点)	23,952	23,857	23,775
合 計	285,685	282,429	278,430

2 公文書資料目録の作成

事 業 名	内 容	実 施
公文書資料目録 令和元年度版 (PDF)の作成	平成 30 年度までに収集・整理した公文書資料の簿冊及び件名目録 (PDF) を作成し、ホームページに掲載した。	令和 2 年 3 月作成

3 古文書資料目録の発行

事 業 名	内 容	実 施
古文書資料目録 25の発行	令和元年度までに収集した古文書資料の検索用目録を作成・発行した。	令和 2 年 3 月発行

4 郷土資料展示

事 業 名	内 容	実 施
郷土資料展示	郷土に関する市民の理解と関心を深めてもらうため、レファレンスカウンター 4 前の展示スペースにて、様々なテーマで郷土福岡の歴史などを紹介し、読書案内のための展示を行った。	通年で実施

5 文学館事業（常設展示）

事業名	内 容	実 施
常設展示	福岡ゆかりの文学者や文学作品，福岡での様々な文学活動を紹介する展示を行った。 会場：福岡市総合図書館1階ギャラリー	通年で実施 (企画展示期間及び 展示準備期間を除く)

6 委員会等

事業名	内 容	実 施
福岡市総合図書館 文書資料収集審査 委員会	所管する文書資料収集の適正化を図るため， 6名の委員により1回開催した。	令和2年 3月26日開催
福岡市文学館資料 委員会	福岡市文学館資料の充実と有効活用を図る ため，8名の委員により2回開催した。	令和元年9月12 日・令和2年3月 24日開催
福岡市文学振興 事業実行委員会	文学振興事業の企画と円滑な実施運営を 図るため，7名の委員により2回開催した。	令和元年5月30 日・令和2年3月 24日開催

映像資料部門

1 映像資料等の収集、整理・保存状況

○映像フィルム収集状況

アジア映画を中心とした国内外の優れた映像資料を収集し、貴重な映像文化財として長期保存を行っており、令和元年度の映画フィルム収集は、寄贈5本であった。

(単位：本)

区 分	令和元年度	平成30年度	平成29年度
購 入	0	4	5
寄 贈	5	1	36
合 計	5	5	41

○映画フィルム所蔵状況

(単位：本)

区 分	令和元年度	平成30年度	平成29年度
映画フィルム	3,297	3,292	3,287
内 購入分	1,024	1,024	1,020
訳 寄贈分	2,273	2,268	2,267

○ビデオ等所蔵状況

(単位：点)

区 分	令和元年度	平成30年度	平成29年度
ビデオ/DVD	6,200	6,200	6,200
C D/カセット	14,200	14,020	13,500
合 計	20,400	20,220	19,700

2 委員会等

事 業 名	内 容	実 施
福岡市総合図書館 映像資料収集 委員会	映像資料の整備・拡充を図るため、東京と福岡で各4名の委員により各1回開催した。	令和元年 6月 5日 令和元年 5月17日 開催
福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ 実行委員会	福岡市総合図書館映像ホール・シネラでの上映等を開催し、その運営を円滑に行うため、8名の委員により1回開催した。	平成31年 4月26日開催

令和元年度 刊行物等一覧

(1) 刊行物

名 称	所管課	発行月	サイズ	ページ	部数	Web 閲覧
図書館要覧（令和元年度版）	運営課	8月	A4	72	300	○
こどもとしょかんニュース	図書サービス課	年6回	A3	1	各1,400	○
モデル児童図書リスト （幼児，小学1・2年生， 小学3・4年生，小学5・6年生）	図書サービス課	4月	A4	2	4,700	○
レファレンスだより	図書サービス課	毎月	A4	4	各250	○
クンドルニュース	図書サービス課	奇数月	A4	1	各600	○
福岡市文学館機関誌 「文学館倶楽部」	文学・文書課	10月・3月	A4	12	各4,800	—
「草紅葉—久保猪之吉とより江」 展図録	文学・文書課 （福岡市文学振興 事業実行委員 会）	11月	B5	80	1,000	有償販売
令和元年度古文書資料目録25	文学・文書課	3月	A4	171	450	有償販売
福岡市総合図書館研究紀要 第20号	文学・文書課	3月	A4	68	450	—
シネラニュース	映像資料課	毎月	A4	4	8,000	○
よかたい通信	運営課 （よかたい図書館 共同事業体）	季刊	A3	1	100	—
百道浜散策マップ	運営課 （よかたい図書館 共同事業体）	不定期	A3	1	200	—

(2) インターネットホームページ

名 称	所管課	アドレス
福岡市総合図書館ホームページ	運営課	https://toshokan.city.fukuoka.lg.jp/
福岡市総合図書館うえぶシネラ	映像資料課	http://www.cinela.com/
福岡市文学館ホームページ	文学・文書課	https://fukuokabungakukan.com/

令和元年度
福岡市総合図書館の運営に関する評価

令和2年9月
福岡市総合図書館

福岡市総合図書館新ビジョン推進に関する点検評価会議委員名簿

(五十音順)

	所属等
上村 篤子	福岡市総合図書館運営審議会委員 (社会教育関係)
岡野 秀之	公益財団法人九州経済調査協会 事業開発部長兼 BIZCOLI 館長
高橋 昇 (委員長)	福岡市総合図書館運営審議会委員 (学識経験者)
松原 明子	福岡市総合図書館運営審議会委員 (家庭教育関係)
宮本 直嗣	福岡市総合図書館運営審議会委員 (本市の住民)

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調査(総括)

福岡市総合図書館新ビジョン基本理念	
市民がくつろぎ、本や人と楽しくふれあえる新たな学び・情報・交流の拠点となる図書館	
利用者の高度化・多様化するニーズに対応できる資料・情報を提供する生涯学習施設として、また、内部空間だけでなく外部空間も含めて、快適な空間を最大限に活用することにより、これまで図書館を利用したことのない人なども集う場を創出し、多くの市民がくつろぎ、楽しさを共有できる新たな情報・交流の拠点となる図書館を目指します。	

成果指標					
成果指標	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末	平成30年度末	令和元年度末
図書館利用者における 図書館サービスの満足度 【令和5年度:90%】	84.2%	85.9% (+1.7)	87.2% (+1.3)	88.9% (+1.7)	—
※図書館サービスに関する調査3項目の満足度のうち、最も低い値を成果とした					
※()は前年度からの増減					
※令和元年度は利用者アンケート調査(例年、翌年度5月実施)を実施せず。					

目標数値					
目標数値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
①入館者数 【令和5年度:3,500千人】	—	—	—	—	2,627,641人
②個人貸出冊数 【令和5年度:4,800千冊】	4,311,916冊	4,274,103冊 [-37,813] [-0.9%]	4,167,046冊 [-107,057] [-2.5%]	4,108,973冊 [-58,073] [-1.4%]	3,958,372冊 [-150,601] [-3.7%]
③貸出利用者数 【令和5年度:1,400千人】	1,217,508人	1,233,797人 [+16,289] [+1.3%]	1,211,296人 [-22,501] [-1.8%]	1,214,402人 [+3,106] [+0.3%]	1,178,884人 [-35,518] [-2.9%]
④新規登録者数 【令和5年度:30千人】	25,337人	33,846人 [+8,509] [+33.6%]	26,207人 [-7,639] [-22.6%]	24,712人 [-1,495] [-5.7%]	22,528人 [-2,184] [-8.8%]
※入館者数については、平成30年度に装置の不具合が判明したため過去の数値も非表示。					
※[]は前年度からの増減。					

内部評価	事業別評価	
<評価> 成果指標である「図書館サービスの満足度」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和元年度の満足度は調査できなかった。また、目標数値については、全項目前年度からマイナスとなっており、図書館利用者等の増加に至っていない状況である。 事業別評価では、25事業のうち24事業がほぼ計画通りに進捗しているとなっており、前年度より評価が伸びている。 <対応> 令和元年度は、新ビジョン後期5年間の事業計画の初年度であるため、今後とも目指す図書館像の実現に向けて必要な取り組みに努めていく。	A評価	16事業
	B評価	8事業
	C評価	1事業
	D評価	—

外部評価

- ・利用者に対する満足度調査が実施できなかったことは残念である。コロナ禍で実施が困難であったことは理解できるが、重要指標であるので実施してほしかった。コロナ禍は当面続くものと思われるため、WEBやスマホなどを用いるなどといった工夫をするなどして、継続的な情報収集と分析、それに基づいた取り組みを行ってほしい。特に、ここ数年、連続して満足度が上昇しており、満足度90%超えが目前だった元もあり、非常に残念だった。
- ・利用者の満足度に加えて、利用していない人からの図書館の評価も必要である。貸出冊数等の減少傾向の原因などを検証しつつ、図書館に対する市民ニーズを把握して、新たなサービスメニューの検討と、新しい評価指標の構築も検討していくことが求められる。
- ・昨年度の事業進捗は、おおむね良好であり、その結果評価は高くなっている。特に、年度末はコロナ禍で大変な状況だったが、休館を挟みつつも、そのなかで多くの成果を上げた点も高く評価できる。今年度は、まさにコロナ禍の対応が求められる年度となる。安全第一を基本としつつ、新たな手法や工夫によって事業運営を行う必要がある。参加者数や回数という数を追う指標よりも、安心感や満足度などといった質を問う指標を追い、ひとつひとつの取り組みを丁寧に実行してほしい。また、リモートやネット、デジタルなどの組み合わせを模索して、これまでになかった新しい取り組みへと昇華するものをひとつでもふたつでも構築してほしい。
- ・余り図書館を利用した事がない人達にも目につくようにPRをしてほしい。紙面やホームページでの告知はされているようだが、もっとメディアでの告知もあればよいと思う。
- ・日本の多くの地方自治体の図書館と同様に福岡市総合図書館で働く管理職、一般職員の多くは司書ではない。このことが業務を効率的に行えない理由の一つと考えられる。行政に通じる職員が存在は重要でもあるが、専門職の存在を必要なものとして行政にも考えてもらいたい。このような課題はありつつも、新ビジョンの実現に向けて努力している館長以下、すべての職員の方々に敬意を払いたい。
- ・休館日、開館時間の見直しは、分館ごとの検討、実現を望む。
- ・本館や新しい分館では快適な空間づくりへの取り組みが進んでいることは評価できる。その一方、分館の中には、子どものコーナーの独立性が低いところなど、レイアウトの見直しや施設のリニューアルが求められる館もある。継続して財源の確保に努め、他の分館においても、よりよい空間づくりの取り組みに着手し、強化することを望む。
- ・ウイルス感染症防止対策が必須な社会となり、リモートでの対応が求められている。WiFi環境の整備、電子書籍やデジタルデータ化などの取り組みの強化を求める。
- ・公的な図書館としてのサービスに積極的に取り組まれていて素晴らしいと感じた。コロナ禍の中、また、市民の書籍に対する関心が(多様化のため)低下する時勢、さまざまな角度から事業にあたられ、検討されていると思う。デジタル化オンライン化が進む中、各事業において柔軟に対応を進め、市民から愛され続ける公的図書館運営を期待する。

事業別評価

委員①		委員②		委員③		委員④		委員⑤	
A評価	19	A評価	15	A評価	7	A評価	10	A評価	22
B評価	5	B評価	9	B評価	15	B評価	14	B評価	3
C評価	1	C評価	1	C評価	3	C評価	1	C評価	0
D評価	0	D評価	0	D評価	0	D評価	0	D評価	0

<評価の基準>

福岡市総合図書館新ビジョン事業計画の取組状況については、下記の基準により評価を行っている。

判定	評価内容
A	計画どおり取り組み、内容も十分である。
B	ほぼ計画どおり取り組んでいるが、少し不十分な点がある。
C	計画どおりには取り組んでおらず、不十分である。
D	取り組んでいない。

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	図書資料の貸出・返却拠点の新設		
内容	分館の新設				
事業計画	早良南地域交流センターの2021年11月の開館に合わせて分館開館準備に取り組みます。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	【早良南図書館】 開館準備			◇開館	
令和元年度					
計画	早良南地域交流センターの令和3年11月の開館にあわせて、開館準備に取り組む				
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・運営方法について検討を行った。 ・関係部署及び関係事業者と、図書館に関する設計等に関して協議を進めた。 				
令和2年度					
計画	令和元年度に検討した結果、指定管理者制度による運営で決定したため、指定管理者の公募、選定等、運営管理に関する手続きを進める。また、開館までに必要な所蔵圖書の収集を行い、開館準備を進める。				
内部評価 (令和元年度)					
令和3年11月の開館に向けて、計画どおり進行させたため、A評価とする。					A
外部評価 (令和元年度)					
<ul style="list-style-type: none"> ・早良南の分館開設に向けて、スケジュール通りの準備が進んでおり評価できる。 ・貸出拠点地が増えるのは、利用の増加につながるのではと思う。 ・総合図書館新ビジョンを作るためのワーキンググループで議論をした。福岡市南部は図書館の利用が不便なので、規模の大きな分館をつくり、ブックモービルで巡回する考えが示された。しかし、新ビジョンに組み入れられることがなく今に至る。 ・図書館サービスを受けることが難しかった地域での分館の新設に期待している。新型コロナウイルス感染症拡大防止の視点も必要となったことを踏まえ、図書館内レイアウトの細かい修正などに取り込み、開館準備を進めてほしい。 ・計画通りの進行で順調だと評価。 					A : 4 B : 1 C : 0 D : 0

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	図書資料の貸出・返却拠点の新設		
内容	貸出・返却拠点等の新設				
事業計画	利用者の利便性の向上を考慮し、交通の便の良い公共施設等における図書の貸出・返却拠点の設置を推進します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	検討, 協議				
	◇設置				
令和元年度					
計画	利用者の利便性の向上を考慮し、交通の便の良い公共施設等における図書の貸出・返却拠点の設置を推進し、市の施設や地下鉄駅、民間施設・店舗などへの拠点設置の可能性を検討していく。				
取組状況	市の施設、民間施設への具体的な設置に向けて、関係部署、関連民間企業等との協議を進めた。				
令和2年度					
計画	市の施設、民間施設への具体的な拠点設置に向けて、関係部署、関連民間企業等との協議を進める。				
内部評価 (令和元年度)					
新たな場所での拠点設置について、官民間わず設置場所の確保協議及び施設管理者等とも協議を進め、東区香椎照葉地区への返却拠点(ポスト)設置について、実現に向けた進展はあったため、Aとする。					A
外部評価 (令和元年度)					
<ul style="list-style-type: none"> ・香椎照葉地区での返却拠点の新規開設ができ評価できる。新型コロナの影響で外出や広域的な移動が自粛されているなかで、返却ポストが身近なところにある点は利用しやすさに直結することから、今後とも継続的に効果的な場所でも返却拠点の設置を検討すべきである。 ・返却拠点も福岡市科学館の新設も増え利用しやすくなったと思う。 ・何年経っても貸出拠点の増設に至らない。福岡市職員の人事制度で長く専門職として図書館で働くことのできる職員及び管理職の不在がその要因とも考えられる。 ・東区香椎照葉地区へのポスト設置実現に向けた進展があったことは評価できるものの拠点の数が少なく、カバーできていない地域があるのが現状と考える。さらなる具体的な取り組みが必要である。 ・貸出返却拠点の協議の進展等を確実に進行している。 					A : 3 B : 1 C : 1 D : 0

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	利用時間の見直し		
内容	休館日、開館時間の見直し				
事業計画	図書館分館ごとの市民ニーズ等に基づき、休館日と開館時間の見直しを検討します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	【休館日】 検討	段階的に実施			
	【開館時間】 検討	段階的に実施			
令和元年度					
計画	総合図書館及び分館の開館時間、休館日の見直しについて、これまでの検討結果及び東図書館での実施状況、成果を検証し、継続的に検討を進めていく。				
取組状況	来館者に調査を実施し、開館時間及び休館日の満足度を確認し、令和元年度は88.9%と高い満足度を得た。				
令和2年度					
計画	引き続き、定期的な調査等のほか市政アンケートを実施し、市民ニーズの把握に努める。				
内部評価 (令和元年度)					
令和3年度に開館予定の早良南図書館については、東図書館と同様の開館時間及び休館日とすることとしている。満足度調査のうえ、開館時間及び休館日の見直しの検討をしており、評価結果をBとする。					B
外部評価 (令和元年度)					
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の利用者との対話を通じ、効果的な開設時間の設定を引き続き検討すべき。場所・立地ごとに柔軟に、かつ分かりやすいカタチとなるよう配慮すべき。 ・開館、閉館、休館日の検討を進めてほしい。 ・令和元年5月のアンケートでは3ヶ所の図書館で不満との回答が13%を超える。内部評価の「検討をしており」との記述には、その結果が示されていない。 ・一律ではなく、分館ごとに開館時間や開館日を検討し、実行に移すことが必要である。長年の利用者の要望に応じてほしい。 ・利用者の満足度の高さを得たこと、今後の取り組みを評価した。 					A : 1 B : 3 C : 1 D : 0

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	図書館イベントの充実		
内容	図書館イベントの充実				
事業計画	子ども向けのおはなし会や体験講座, 大人向けの講座など, 幅広い層に向けて多様なイベントを実施し, これまで図書館を利用していなかった層への訴求や, 参加者の満足度の向上を目指し, 引き続き, 読書の普及や図書館の活用促進を図ります。 また, 市の関連部署と連携したイベント, 総合図書館の映像資料部門や文書資料部門, 各分館との連携による企画を実施していきます。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	幅広い層へのイベント実施				
令和元年度					
計画	総合図書館及び分館において, 共通テーマで選んだ各館の蔵書を10月に一斉展示する「図書館マンス」をはじめ, 「こどもの読書週間」や「読書週間」などを中心に読書普及につながるイベントを企画・実施する。また, 大人やヤングアダルトを対象としたイベントを引き続き企画・実施する。				
取組状況	10月の「図書館マンス」において, 総合図書館及び分館で「図書館元年～はじめのいっぽ」を共通テーマとし, さらに各部門毎にサブテーマを設定して, 展示や様々なイベントを実施した。 「こどもの読書週間」では, こどもの日特別おはなし会を開催した。 また, 大人向けとして, 読書会, 福岡おはなしの会によるストーリーテリング, 落語会, がん講演会などを, ヤングアダルト向けに, ビブリオバトルやTRPG, ボードゲーム, 国連講演会・ワークショップなどを実施した。4～6月には, G20福岡の展示, 令和2年1～2月には, 中村哲医師の追悼展示, 2月には, SDGs強化月間として, 展示やイベントを行った。当初予定になかったが, 友好都市締結40周年を記念して来福した広州市友好訪問団を当館に迎え, 広州ユース交響楽団によるロビーコンサートや広州図書館青少年漫画作品展を開催した。				
	読書行事等イベント 総合図書館・分館896回 22,452人 展示(総合図書館)117回				
令和2年度					
計画	新型コロナウイルスの状況や対策に十分に配慮しながら, 総合図書館及び分館において, 共通テーマで選んだ各館の蔵書を10月に一斉展示する「図書館マンス」をはじめ, 「こどもの読書週間」や「読書週間」などを中心に読書普及につながるイベントを企画・実施する。また, 大人やヤングアダルトを対象とした読書イベントを引き続き企画・実施する。				
内部評価 (令和元年度)					
令和2年2月になって, 新型コロナウイルス感染防止のためイベントを中止したが, それまでは総合図書館および分館において, 「図書館マンス」をはじめ, 数多くの様々なイベントを計画どおり実施することができた。また, 広州市との友好都市40周年を記念して, 様々な事業の実施を行った。これらによりA評価とする。					A
外部評価 (令和元年度)					
<ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントや展示が工夫されて実施されている点は高く評価できる。今後は, 新型コロナウイルスの対策を講じつつ, 安全第一で工夫してできる範囲で実施してほしい。回数よりも質を高め, 1回1回を丁寧に, 利用者の方が安心して参加できるよう, リモートやデジタルとも組み合わせ, コロナ禍ならではの新たなチャレンジをしてほしい。 ・魅力あるイベント及びPRを進めていって欲しい。 ・幅広い活動は評価できる。新型コロナウイルス防止の為に, WEB上のイベントを考慮して充実を図ってほしい。 ・幅広い年齢層に向けたイベントが充実してきている。その矢先, このコロナ禍であるが, 感染防止対策に配慮しつつ停滞することなく取り組まれることを望む。 ・さまざまな角度, さまざまな利用者のニーズに合わせたイベントの企画実施を評価した。 					A : 4 B : 1 C : 0 D : 0

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	快適な空間づくり		
内容	快適な空間づくり				
事業計画	<p>やすらぎや交流の場といった、初めての来館者も過ごしやすい環境の創出など、大幅な館内レイアウトの変更について、施設設備の大規模更新による休館(6カ月程度)にあわせて行うこととし、長期保全計画に基づく設備更新を計画的に推進します。</p>				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
令和元年度					
計画	<p>建物の長寿命化のために策定した長期保全計画に基づき、計画的に令和元年度の工事を行う。また、同計画から優先度の高い工事を抽出し、財政的負担を平準化して工事が可能となるよう短期的な工事について見直すほか、休館時期の検討に着手する。</p>				
取組状況	<p>平成元年度は、電話設備更新工事、消火設備更新工事、パッケージ(部分)エアコン更新工事などの設備更新工事を行った。また、令和2・3年度の短期的な工事計画を策定したほか、大規模更新による休館時期の決定に向け、令和4年度以降の工事時期について、個別計画を策定するなどして、検討を行った。</p>				
令和2年度					
計画	<p>引き続き、計画的に設備更新工事を実施する。また、新型コロナウイルス感染症対策による全市的な工事の時期等の見直しの指示等を踏まえながら、更新工事時期の検討を行う。</p>				
内部評価 (令和元年度)					
<p>長期保全計画に基づき計画的に設備更新工事を実施したほか、個別計画案は策定したが、休館時期の検討までは着手できなかったため、B評価とする。</p>					B
外部評価 (令和元年度)					
<p>・コロナ禍での休館を含む利用制限やイベント・展示等の制限は、設備等のリニューアルの貴重な機会とすることも可能である。新型コロナウイルスの動静を見据えながら、これまで開館しながらでは難しかったようなリニューアルについて、実行のタイミングを逸しないように事前に準備を進めておくべきである。</p> <p>・引き続きお願いする。</p> <p>・総合図書館を念頭に置いているが、分館の快適な空間づくりも検討してもらいたい。長いスパンで考えて、分館の規模の拡大が欠かせない。</p> <p>・快適でやすらげる空間づくりに加え、安心して利用できることが求められている。大規模更新の時期を迎え、大幅な館内レイアウトの変更が行える今こそ、換気システムの改良なども盛り込んだ計画を進めてほしい。人の流れ、空気の流れのシミュレーションの考察も必要と考える。</p> <p>・コロナ禍の内、着実に計画の策定をしており評価した。</p>					<p>A : 1</p> <p>B : 4</p> <p>C : 0</p> <p>D : 0</p>

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	図書館サービスの充実		
内容	資料収集の充実				
事業計画	公共図書館としての役割を発揮するため、前期で見直した図書資料の収集方針に沿って資料収集を行い、市民ニーズに応えるよう努める。 また、電子書籍の取り扱いについて、業界や他都市の動向を踏まえて、検討を継続していく。 さらに、収集した資料を幅広く活用できる方策を検討する。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	資料収集方針に沿った資料収集				
令和元年度					
計画	公共図書館としての役割を発揮するため、前期で見直した図書資料の収集方針に沿って資料収集を行い、市民ニーズに応えるよう努める。また、電子書籍の取り扱いについて、業界や他都市の動向を踏まえて、検討を継続。 さらに、収集した資料を幅広く活用できる方策を検討していく。				
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・公共図書館としての役割を発揮するため、総合図書館及び分館の収集方針に沿って資料収集を行った。 ・市民ニーズに応えるようリクエスト本、予約待ち人数の多い図書の複本購入等を実施。 ・総合図書館1階に大型展示棚を設置し、普段、利用者の目に触れることの少ない専門書や閉架図書を企画展示して貸出の促進に努めた。 ・電子書籍について、業界や他都市の動向を踏まえた、検討を継続。 				
令和2年度					
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・総合図書館及び分館の収集方針に沿って資料収集を行っていくとともに、市民ニーズにも対応していく。 ・電子書籍については、他都市の事例を調査するなど、導入について検討していく。 				

内部評価 (令和元年度)	
限られた予算の中で、総合図書館及び分館の資料収集に努め、市民ニーズのあるリクエスト本、予約待ち人数の多い図書の複本購入等を実施した。また、大型展示棚を設置し、利用促進に努めたのでA評価とする。	A

外部評価 (令和元年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・多様なニーズに合わせた図書や電子書籍等の収集・開架は非常に難しいしごとであるが、貸出冊数の減少傾向に歯止めがかかっていないことから、もう少し工夫が必要に感じる。電子書籍や外部デジタルデータベース(統計データや企業データ)などの活用もぜひ積極的に使いやすい形で提供を進めていくべきである。 ・専門書もあり、多くの人が利用できるようにと思う。 ・「さまざまな情報」を総合図書館が収集する資料であるとの認識を改めるべきである。WEB上に信頼できる多くの情報が存在する。それらへのアクセスを可能にする機能をホームページ上に備えることで、市民にさまざまな情報を提供することができる。 ・さらなる予算の確保に取り組んでほしい。蔵書が少ない、古いという声が上がっている分館もある。分館ごとに調査し、資料の充実を願う。 ・市民のニーズに応えた資料、図書の収集を実施したこと、電子書籍の検討を評価した。 	A : 2 B : 3 C : 0 D : 0

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	図書館サービスの充実		
内容	レファレンス(相談)サービスの充実				
事業計画	窓口、電話、文書、電子メールによるレファレンスを実施するとともに、レファレンス情報のホームページでの提供を進めます。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	レファレンスサービスの実施				
	令和元年度				
計画	窓口、電話、文書、電子メールによるレファレンスを実施する。また、ホームページでのレファレンス事例の紹介を図る。				
取組状況	窓口、電話、文書、電子メールによるレファレンスを実施し、令和元年度の主題別部門のレファレンス件数は、36,294件(平成30年度 37,970件)、文書資料部門のレファレンス件数は4,033件(平成30年度4,915件)となった。また、ホームページにおけるパスファインダー(調べものの道案内)を利用しやすくするとともに、国立国会図書館のレファレンス協同データベースを活用して、ホームページ上で、当館のレファレンス事例を紹介できるようにした。				
令和2年度					
計画	窓口、電話、文書、電子メール等によるレファレンスを実施するとともに、ホームページの活用を進める。				

内部評価 (令和元年度)

新型コロナウイルス影響により休館期間があったが、レファレンス件数は微減に留まった。また、パスファインダー機能の充実やレファレンス事例の紹介などホームページの活用が進んだことを踏まえ、A評価とする。	A
--	---

外部評価 (令和元年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・休館期間があったにもかかわらず、レファレンスのお問い合わせが微減にとどまっており、レファレンスへの期待と対応への満足度が高いことが予想される。コロナ禍で行動が制限され、来館者が減るなか、電話やメール等でのレファレンス対応にリソースをシフトし、コロナ禍のなかでも必要とされる図書館を目指してほしい。レファレンスは、コロナ禍のなかで重視すべき指標と考える。 ・ホームページのPRもあわせてしてほしい。 ・メールでのレファレンスが増えていない。何かが欠けていることに気づいてほしい。 ・レファレンスや資料閲覧をホームページの画面上で行いやすい。更なる改善を望む。 ・さまざまなレファレンスサービスの実施を高く評価した。 	A : 4 B : 1 C : 0 D : 0
---	----------------------------------

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調査(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	図書館サービスの充実		
内容	課題解決型支援の充実				
事業計画	ビジネスや医療、子育て支援などの課題解決に対して、関係部局及び国・県等と連携を図りながら、図書館資料を活用した展示や講演会、相談会等を行う。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
医療・ビジネス・子育て支援等の情報提供					
令和元年度					
計画	医療、ビジネス、行政などの課題解決支援として、本市関係部局や関係機関等と協力して、図書館資料を活用した情報提供や関連事業を実施する。				
取組状況	<p>○ビジネス支援として、毎月第2・第4日曜日に中小企業診断士による起業・経営相談会を開催した。 年間開催数 63回(3回/日×21日) 相談15件、起業相談が約9割 相談会開催については市政日より、図書館ホームページ、館内掲示等で周知を図った。</p> <p>○医療情報の提供として、総合図書館、分館で九州がんセンター及び済生会福岡総合病院から医師等を講師として招き講演会を開催した。7月に総合図書館2階にがん情報コーナーを設置した。</p> <p>①総合図書館:H31.4.13(土):すい臓がん 76人参加(九州がんセンター) R1.11.30(土):がんゲノム医療 41人参加(九州がんセンター)</p> <p>②和白図書館:R1.6.19(水)大腸がん R1.11.13(水)肝臓がん 計66人参加</p> <p>③博多南図書館:R1.7.12(木)肺がん 計28人参加</p> <p>④中央図書館:H31.4.24(水)肝臓がん R1.10.30(水)乳がん R2.2.5(水)胃がん 計122人参加</p> <p>⑤西部図書館:R1.11.17(日)健康講座「がんに備えるお金の話」 10人参加</p> <p>○子育て支援として、関係局と連携し、11月の児童虐待防止推進月間におよこ映画上映会と企画展示を行った。 ○G20やSDGsなど、関係部局・団体と連携して展示を行い、パンフレットの配布などにより、市の事業、新たな制度、相談窓口等の情報提供を行った。</p>				
	令和2年度				
計画	新型コロナウイルスの状況や対策に配慮しながら、課題解決型の行事を実施する。				
内部評価 (令和元年度)					
新型コロナウイルスの影響で一部中止したのもあったが、起業・経営相談、がんの講演会、関係部局との連携展示などを概ね予定通り実施できたので、A評価とする。					A
外部評価 (令和元年度)					
<p>・コロナ禍以前の積極的な取り組みは高く評価できる。今後とも利用者のニーズや声をうまく取り入れつつ、図書館として行うべきこと、図書館でしか行えないこと、図書館ならではのこと、などを考慮しつつ、新たな企画を提案して欲しい。特に、コロナ禍に対応して、リモートなどの開催手法の工夫も必要である。リモートならではの新たな取り組みが構築できる可能性も高く、引き続き前向きな取り組みを期待する。</p> <p>・連携展示の実施は効果のある行事になる。展示内容をホームページ上で見ることができるよう工夫してもらいたい。</p> <p>・情報があふれている現在、その中から課題解決のための選りすぐりの情報を関係部局などと協力して市民に提供することが求められている。停滞することなく取り組み、充実させてほしい。</p> <p>・課題解決支援の取り組みと実施は公的な図書館の役割を高める素晴らしい取り組みとして評価した。</p>					A : 5 B : 0 C : 0 D : 0

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	地域読書活動への支援		
内容	団体貸出先の拡大				
事業計画	地域の読書活動の拠点である地域文庫や学校、高齢者福祉施設等への団体貸出を実施し、団体貸出サービスの充実を図ります。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	団体貸出先の拡大				
令和元年度					
計画	令和5年度目標登録団体数の420団体に向けて取り組みを進める。				
取組状況	団体貸出の登録団体は令和元年度末時点で415団体となり、平成30年度に比較して19団体増加した。また、地域文庫交流会で未登録の公民館関係者に対する広報活動を実施した。				
令和2年度					
計画	令和5年度目標登録団体数の420団体に向けて取り組みを進める。				

内部評価 (令和元年度)

令和5年度目標420団体の登録に向け、平成30年度に比較して19団体増加の415団体を登録することができたためA評価とする。	A
--	---

外部評価 (令和元年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度420団体の目標に対して、19団体増の415団体の登録は高く評価できる。地域コミュニティやボランティアの育成とともに、着実な定着と利用促進をの工夫を続けてほしい。 ・福岡市内にある矯正施設(福岡拘置所:定員600名、福岡少年院:定員150名)への貸出も検討すべき課題かと考える。 ・前年度に続き、登録団体が増加していることは評価できる。それに伴い、図書資料の充実と確保を望む。 ・登録団体の確実な増加等を評価した。 	A : 5 B : 0 C : 0 D : 0
--	----------------------------------

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	地域読書活動への支援		
内容	地域読書活動への支援				
事業計画	地域において読書活動を行っている団体の活動状況を調査してニーズを把握するとともに、公民館や留守家庭子ども会等を訪問して、活動や環境整備への助言や支援等を行います。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	地域読書活動への支援				
令和元年度					
計画	地域における読書ボランティアの活動の支援及び公民館における子どもの読書活動の推進に重点的に取り組むため、関係各課と連携して文庫活動の活性化や文庫間の交流促進を図る事業等を行う。				
取組状況	公民館への読書活動支援について、生涯学習課と連携して地域文庫交流会を生涯学習課主催の「公民館文庫活動実践報告・交流会」と併せて共同開催するとともに直接地域文庫(7団体)への訪問を行った。その際には活動状況やニーズの調査を行い、また団体貸出の選本来館や配本・回収時などの機会に意見要望を伺い取組みの参考とした。団体貸出における公民館の登録数は62団体であり、平成30年度と比較し1団体増加した。				
令和2年度					
計画	地域における読書ボランティアの活動の支援及び公民館における子どもの読書活動の推進に重点的に取り組むため、関係各課と連携して文庫活動の活性化や文庫間の交流促進を図る事業等を行う。				

内部評価 (令和元年度)	
公民館等の読書活動への支援について関係課と連携し、昨年に引き続き地域文庫交流会を生涯学習課と共同で開催するとともに、ニーズ調査など取り組みを進めたが、地域文庫交流会の参加者が13団体18名にとどまったことや、公民館等への具体的支援に至らなかったことから成果が不十分な面もあるためB評価とする。	B

外部評価 (令和元年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の読書活動支援を着実に進めている点は評価できる。今後はコロナ禍のなかで、どのようなカタチで進化・継続させていくことができるかが問われている。リモートを組み合わせることで、これまで各公民館ごとに取り組んでいたことを、公民館同士の相互情報交換や複数図書館での同時開催など、横を繋ぐ取り組みに昇華させることのできるチャンスでもあり、ピンチをチャンスに変える工夫を期待する。 ・障がい児に向けた読み聞かせ等の支援もしてほしい。 ・公民館との連携、地域の読書ボランティアとの連携が不十分。 ・公民館の読書活動への支援は、地域に小さな図書室を整備するようなものであり、それぞれの公民館のニーズの調査やそれに合わせた具体的な支援が望まれる。 ・地域公民館等との共同開催や地道な取り組みを継続していることを高く評価した。 	A : 2 B : 3 C : 0 D : 0

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	市関連施設の図書室の相互協力		
内容	市関連施設の図書室の相互協力				
事業計画	引き続き、議会図書室、科学館及びふくふくプラザとの相互協力を実施するとともに、今後とも市関連施設との連携について検討していきます。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	相互協力の実施				
令和元年度					
計画	議会図書室、科学館及びふくふくプラザとの相互協力を実施するとともに、今後とも市関連施設との連携について検討していく。				
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・議会図書室を通じて、市議会議員及び行政職員への図書資料の貸出による支援。 ・ふくふくプラザで図書資料の返却実施(福祉図書・情報室窓口での返却受付、施設入口に返却ポスト設置)。 ・福岡市科学館のサイエンスナビにおいて、図書資料の貸出・返却を実施。 				
令和2年度					
計画	引き続き、議会図書室、科学館及びふくふくプラザとの相互協力を継続していく。				

内部評価 (令和元年度)	
議会図書室、科学館、ふくふくプラザとの相互協力を行い、市関連施設との連携は良好に継続できたが、新たな展開はなかったためB評価とする。	B

外部評価 (令和元年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・相互協力の在り方について、引き続き議論を進め、進展を図ってほしい。 ・市議会議員、市行政職員の要求をどの程度把握して貸出やレファレンスを実施しているのか数値データが無く判断ができない。回答のあった32冊で充足しているのだろうか。 ・科学館、ふくふくプラザに続く、新たな拠点をつくることに着手し、取り組みの充実を望む。 ・議会図書室の利用が少ないことを憂慮する。議会への情報提供は市政の向上を左右する。働きかけを望む。 ・関連施設との返却受付等の取り組み等を評価した。 	<p>A : 0</p> <p>B : 5</p> <p>C : 0</p> <p>D : 0</p>

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	子どもへの読書普及		
内容	ヤングアダルト層(12歳～18歳)への働きかけの強化				
事業計画	広報やイベントを充実させるとともに、中高生に訴求する資料収集を進めます。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
令和元年度					
計画	ヤングアダルト向けに図書の紹介を行うことに加え、ヤングアダルト層を対象とするイベントを実施する。また、市立高等学校を対象に、総合図書館の一般書架の図書資料を調べ学習用に貸出する制度を継続する。				
取組状況	<p>推薦図書の展示やリスト配布に加え、ビブリオバトルやTRPG、ボードゲーム、高校生を対象とした国連講演会・ワークショップなどヤングアダルト層の読書活動の促進に資するイベントを実施した。</p> <p>また、市立高等学校を対象に、総合図書館の一般書架の図書資料を調べ学習用に貸出する制度を実施した。(3高等学校 227冊貸出:3月末現在)</p> <p>イベント回数 4回 参加人数 75人</p>				
令和2年度					
計画	引き続きヤングアダルト向けに図書の紹介を行うことに加え、ヤングアダルト層を対象とするイベントを実施する。また、市立高等学校を対象に、総合図書館の一般書架の図書資料を調べ学習用に貸出する制度を継続する。				

内部評価 (令和元年度)

令和2年2月になって新型コロナウイルスのため中止したイベントもあったが、ビブリオバトルなど、新しくヤングアダルト層の読書活動の促進につながるイベントを展開し、今後の拡大が期待できるものとなったためA評価とする。	A
---	---

外部評価 (令和元年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・市立高校との連携を通じて、さまざまな取り組みを進めている点は評価できる。今後は、市立学校に加えて、県立・私立などへの展開可能性について検討してはどうだろうか。 ・参加人数が75人。新型コロナウイルスへの対応を考えると、今後の展開が見えない。中学生になると一気に利用が減少する原因を改善しなければ、根本的な改善は不可能である。 ・ビブリオバトルなどのイベントはヤングアダルト層への読書活動促進につながり、一定の評価はできるものの、一部の本好きの子のイベントにとどまっていると感じる。それをどう広げていくかという次の課題に取り組んでほしい。 ・ヤングアダルト層に対し積極的なイベント実施を評価した。 	A : 3 B : 2 C : 0 D : 0
---	----------------------------------

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	子どもへの読書普及		
内容	モデル児童図書リストの配布				
事業計画	子どもたちやその保護者等が子どもの本を選ぶ目安として、各年齢層に応じた本を紹介したリストを配布し、子どもの読書推進に寄与します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	作成・配布				
令和元年度					
計画	モデル児童図書リストを作成し、関係機関(保育園, 小学校, 公民館等)へ配付するとともに、掲載図書を展示し貸出を促進する。 また、おはなし会等の催しにおいて掲載図書を紹介し、リストの活用や貸出を促す。				
取組状況	モデル児童図書リストの配付(約4,700部)、おはなし会等での掲載図書の紹介を行い、カウンターでのレファレンスのツールとしても有効に活用した。また、従来のモデル児童図書目録掲載図書及びリスト掲載図書の展示、貸出を行った。				
令和2年度					
計画	モデル児童図書リストを作成し、関係機関(保育園, 小学校, 公民館等)へ配付するとともに、掲載図書を展示し貸出を促進する。				

内部評価 (令和元年度)

モデル児童図書リストの配付、モデル児童図書の展示、紹介等を計画通り行い、掲載図書の貸出を促進することができたためA評価とする。	A
---	---

外部評価 (令和元年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・モデル図書の紹介は、非常に丁寧で分かりやすく、新しい本が数多く紹介されている点も高く評価できる。今後は、いままでのストックの活用、SNSやHPなどでの紹介など、作成したリストが幅広く利用者の方に届くような工夫を積み重ねていただきたい。 ・モデル児童図書配布により貸出につながったかの検証も必要かもしれない。 ・モデル児童図書リストの作成、配布は評価できる。継続してほしい。 ・モデルリストの配布等による貸出促進等に取り組み、おはなし会等子供への読書普及につながったと思う。 	A : 5 B : 0 C : 0 D : 0
--	----------------------------------

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	子どもへの読書普及		
内容	子どもの貸出カード作成推進				
事業計画	図書館の貸出カードを所有していない児童を対象として、貸出カードの作成を推進することにより、読書の普及等を図ります。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	検討, 協議	実施			
令和元年度					
計画	小学生の図書館見学や「小学生読書リーダー養成講座」などの研修・イベントの際に貸出カードの作成を促す取り組みを継続する。				
取組状況	総合図書館の指定管理者が行う小学生の図書館見学の際に貸出カード作成の呼びかけを依頼した。また、主催事業である「小学生読書リーダー養成講座」においても貸出カードの作成を促した。				
令和2年度					
計画	開催可能な図書館催事や講座, 団体貸出し等の機会を捉え, 図書館の貸出しカードの作成を促す声かけに努める。				
内部評価 (令和元年度)					
機会を捉えて貸出カードの作成を促したが, 2事業にとどまり具体的成果も不明のため, C評価とする。					C
外部評価 (令和元年度)					
<ul style="list-style-type: none"> ・毎年の課題となっており、なかなか困難であるが、分館と小学校の連携、団体貸し出しとの連携強化など、機会確保と浸透方法の工夫を再検討する必要がある。また、貸出しカード自体の電子化(スマホアプリ化)、更新頻度の見直し、福岡市発行のその他のカードとの一体化(例えば、公共施設予約システムとの一体化)なども工夫する必要があるかもしれない。 ・活字離れになっているが、読書への推進を継続してほしい。 ・総合図書館で行うのには無理があるので、分館と学校の連携で行うように考えてもらいたい。 ・各館、一律ではない取り組み(小学校が近い場合は連携して図書館員が出向いてPRするなど)が求められる。 ・小学生図書館見学等でのカード作成の呼びかけ等の取り組みをふまえ評価した。 					A : 0 B : 1 C : 4 D : 0

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	子どもへの読書普及		
内容	ヤングアダルト層(12歳～18歳)への働きかけの強化				
事業計画	広報やイベントを充実させるとともに、中高生に訴求する資料収集を進めます。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
令和元年度					
計画	ヤングアダルト向けに図書の紹介を行うことに加え、ヤングアダルト層を対象とするイベントを実施する。また、市立高等学校を対象に、総合図書館の一般書架の図書資料を調べ学習用に貸出する制度を継続する。				
取組状況	<p>推薦図書の展示やリスト配布に加え、ビブリオバトルやTRPG、ボードゲーム、高校生を対象とした国連講演会・ワークショップなどヤングアダルト層の読書活動の促進に資するイベントを実施した。</p> <p>また、市立高等学校を対象に、総合図書館の一般書架の図書資料を調べ学習用に貸出する制度を実施した。(3高等学校 227冊貸出:3月末現在)</p> <p>イベント回数 4回 参加人数 75人</p>				
令和2年度					
計画	引き続きヤングアダルト向けに図書の紹介を行うことに加え、ヤングアダルト層を対象とするイベントを実施する。また、市立高等学校を対象に、総合図書館の一般書架の図書資料を調べ学習用に貸出する制度を継続する。				

内部評価 (令和元年度)

令和2年2月になって新型コロナウイルスのため中止したイベントもあったが、ビブリオバトルなど、新しくヤングアダルト層の読書活動の促進につながるイベントを展開し、今後の拡大が期待できるものとなったためA評価とする。	A
---	---

外部評価 (令和元年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・市立高校との連携を通じて、さまざまな取り組みを進めている点は評価できる。今後は、市立学校に加えて、県立・私立などへの展開可能性について検討してはどうだろうか。 ・参加人数が75人。新型コロナウイルスへの対応を考えると、今後の展開が見えない。中学生になると一気に利用が減少する原因を改善しなければ、根本的な改善は不可能である。 ・ビブリオバトルなどのイベントはヤングアダルト層への読書活動促進につながり、一定の評価はできるものの、一部の本好きの子のイベントにとどまっていると感じる。それをどう広げていくかという次の課題に取り組んでほしい。 ・ヤングアダルト層に対し積極的なイベント実施を評価した。 	A : 3 B : 2 C : 0 D : 0
---	----------------------------------

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	子どもへの読書普及	
内容	読書活動ボランティア講座の強化			
事業計画	読書活動ボランティア講座を開催し、学校や地域等幅広いボランティアを養成して、地域の読書活動の推進に寄与します。			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	読み聞かせ講座の実施			
	ストーリーテリング講座・おさらい会の実施			
令和元年度				
計画	令和元年5月～6月に絵本の読み聞かせコースを、9月～11月にストーリーテリングコースをそれぞれ実施する。また、令和2年2月に反復練習のためのおさらい会を実施する。講座受講者には、受講後に地域文庫MAPを配布し、地域での活動参加につなげる。			
取組状況	令和元年5月～6月に絵本の読み聞かせコース(4日間、定員100名)を実施し、また、9月～11月にストーリーテリングコース(4日間、定員40名)を実施し、併せて延べ481名の参加があった。講座受講者には、福岡市内で活動している文庫団体の活動拠点を掲載した地域文庫MAPを配布し情報提供を行った。また、昨年に引き続き令和2年2月にストーリーテリングコースのおさらい会(1日間、参加予定29名)を実施する予定としていたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止した。			
令和2年度				
計画	令和2年5月～6月に絵本の読み聞かせコース、9月～11月にストーリーテリングコースを実施することとしていたが、新型コロナウイルス感染防止のため計画を変更し、9月～10月に絵本の読み聞かせコースのみを実施する。講座受講者には、受講後に地域文庫MAPを配布し、地域での活動参加につなげる。			
内部評価 (令和元年度)				
新型コロナウイルス感染防止のため「おさらい会(反復練習)」を中止したが、主要講座及び地域文庫MAPの配布は計画通り実施したためA評価とする。				A
外部評価 (令和元年度)				
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスのなかで今後の開催が困難になるとみられるが、ボランティアの方々との対話を通じて、安全第一で効果的な方法をぜひ編み出してほしい。 ・新型コロナウイルス感染症防止しながら、講座を実施する方法を考えてもらいたい。 ・読書活動ボランティア講座は高評価である。コースの内容も充実してきている。継続を望む。 ・ボランティア講座の着実な展開等を評価した。 				A : 5 B : 0 C : 0 D : 0

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	学校図書館への支援		
内容	学校図書館支援センターの充実				
事業計画	前期での成果を踏まえ、総合図書館内に設置した学校図書館支援センターにおいて、市立小・中・特別支援学校の学校図書館への人的・物的支援を行い、学校司書の活動をサポートします。 ・学校図書館への運営等に関する指導、助言 ・学校図書館の図書への選書や助言 ・学習支援用図書の貸出、学校司書への支援				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	公共図書館司書の専門性を生かした学校図書館への支援				
	学習支援図書の貸出				
	学校図書館の活用・運営に係る情報収集と提供				
令和元年度					
計画	前期までの成果を踏まえ、より学校現場の需要にマッチした支援が行えるよう努める。また「小学生読書リーダー養成講座」については、昨年度同様に3日間の開催とする。				
取組状況	令和元年度は、相談対応200件、訪問101回を実施した。学習支援用図書の貸出は、小学校用は81校から198回の利用があり、7,177冊を貸し出すとともに、学習指導要領の改定に沿って蔵書整備を行った。中学校用は9校から10回の利用があり、311冊の貸し出しを行った。 また、市内小学校5・6年生を対象に、受講した児童を「小学生読書リーダー」に認定する「小学生読書リーダー養成講座」については、6月から7月に3日間開催し、65校から222名の参加があった。 特別支援学校への支援は、高等部の卒業生を対象に図書館利用案内を作成し、配付した。				
令和2年度					
計画	学校の新型コロナウイルス感染防止策の状況も踏まえ、より学校現場の意向、要望に沿った支援に努める。また「小学生読書リーダー養成講座」については、図書館での実施は困難であるが、講座の目的を損なわない範囲での実施を検討する。中学校用の学習支援用図書について学習指導要領の改定に沿った蔵書整備を進める。 読書に困難がある児童・生徒のため、マルチメディアDAISY等の貸出資料を整備し、貸出を行う。				
内部評価 (令和元年度)					
前年度に対し、相談件数は64件の増加、学校訪問は51回の増加、学習支援用図書の貸出は、中学校用は貸出の回数及び冊数は減少したものの登録校数は3校増加、小学校用は回数が50回、冊数が1,536冊、登録校数が5校それぞれ増加し、事業の認知と活用が進んでいるためA評価とする。					A
外部評価 (令和元年度)					
<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数や学校訪問数が増加するなど、積極的に活動が進められており高く評価できる。これまでどおり継続的に事業の認知と活用を進めてほしい。 ・努力と成果を評価したい。 ・小学校向けの支援は周知もすすみ、評価できる。中学校向けの取り組みのさらなる強化が望まれる。 ・相談や訪問等十分な支援を行っている事やリーダー養成講座の開催等を評価した。 					A : 4 B : 1 C : 0 D : 0

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	総合図書館の特色を生かした図書館	項目	映像資料部門の充実		
内容	図書館外施設での映像資料上映事業				
事業計画	収集した映像資料についてさまざまな手法を用いて市民等に提供することで、効果的な図書館の映画保存事業のアピールを行います。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	手法検討	上映事業の実施			
令和元年度					
計画	事業名称:「アジア映画上映会」 開催日時: 令和2年2月29日(土)13時30分 会場: 高取公民館 1階講堂				
取組状況	予定していた高取公民館での「アジア映画上映会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の取組みが広がる中で、2月21日からの映像ホール・シネラでの上映中止に続いて、開催延期(再開時期未定)となった。ただし、高取公民館の講堂の視察や必要な機材の確認、運営のやり方など、令和3年度から定期的に行う事業としてのノウハウの蓄積は行なえた。				
令和2年度					
計画	市民局公民館支援課とも協議の上、効果的な公民館への告知方法等を検討。同時に新型コロナウイルス対策を検討しながら、昨年度延期となった高取公民館での開催を含めて2か所の公民館上映を予定する。				
内部評価 (令和元年度)					
従来、総合図書館外での上映は、収蔵しているアジア映画の有効化を図るとともに、映像文化の普及・振興・市民サービスの促進のため実施してきた。これまでは市民センターのホールを利用してきたが、ホールが大きすぎる事、事業予算がかかりすぎる事などがあり、新たな手法を検討、公民館等における無料上映とすることで市民により身近なアジア映画上映会を開催することとした。 令和元年度は公民館における最初のアジア映画上映のテストケースとして実施するため、上映作品や機材の準備を行い、記者投げ込み等による広報活動も行なっていた。 最終的には、新型コロナウイルス感染拡大防止の中で公民館自体も利用が出来なくなり、上映の機会を逸したが、公民館上映のノウハウ等の検討は出来たので、B評価とする。					B
外部評価 (令和元年度)					
・開催方法について、公民館を活用する等工夫がなされており評価できる。持続可能な方法を引きつづき検討し、ひとつずつでも着実に実行し、検証しつつ進めていってほしい。 ・試行して検討を行い、今後の計画に反映できたのは評価できるが、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぎつつ、いかに継続するのが課題である。 ・公民館上映の取り組みは映像資料の有効化、市民サービスにつながり、評価できる。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をしながら、実施が望まれる。 ・公民館上映ノウハウの蓄積等新型コロナウイルス禍の中、可能な限りの取り組みをしたことを評価した。					A : 1 B : 4 C : 0 D : 0

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	総合図書館の特色を生かした図書館	項目	映像資料部門の充実		
内容	資料展示事業				
事業計画	展示事業をシネラの広報に限定せず、アジア映画のポスター展を中心に多様な展示を計画し、映像文化の普及・振興、市民サービスの促進を行います。場所はビデオライブラリーを使った展示空間の新設を検討します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	多様な資料の展示				
	展示エリアの検討		展示エリアの整備		
令和元年度					
計画	映像ホールでの「レスター・ジェームス・ピール監督のスリランカ映画」(4月3日(火)~4月21日(日))に併せて1階ショーケースで「スリランカ映画ポスター集」(4月3日(火)~4月21日(日))を開催。しかしショーケースは安全性の問題などで問題があり以後はシネラ前で上映企画に併せてポスター1点を展示する。 他の試みとして、特別上映において、映像ホール・シネラ内での効果的な広報・展示や、ホール外での大型幕展示など、新たな手段を模索する。				
取組状況	4月に予定通り「スリランカポスター展」を実施。またシネラ受付前で上映企画に併せてポスター展示を行う。その他映像ホールで開催した「スタンスカンパニーの軌跡」(1月22日(水)~1月26日(日))において、映像ホール・シネラ内にアクリルケース等を設置して、スタンスカンパニーに関する書籍、パンフレット、ポスター、DVDの外装等を、デコレートして展示した。				
令和2年度					
計画	新型コロナウイルスのため、映像ホールでの映画上映が6月17日から開催となった。年間の上映企画の再検討が必要であるため、映像ホール前での上映企画にかかわるポスター展示を継続しながら、新たに使用されるようになるショーケースの活用及び新たな展示エリアの検討を行う。				
内部評価 (令和元年度)					
「スリランカ映画ポスター集」では日本にない貴重なオリジナルのポスターを展示。その他予定通りに展示を実施。観客の注目を浴びた。特に「スタンスカンパニーの軌跡」特集における映像ホール内の展示は、情報量も密であり、かつ芸術性も高いと極めて好評で、記念として撮影したいとの申し出が多数あった。施設のスペックに沿った従来からの展示方法ではない、新たな取り組みは今後の事業展開に好材料になったと思われる。よってA評価とする。 なお「展示エリアの検討」は図書館の大規模改修に伴い行うことになった。					A
外部評価 (令和元年度)					
<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な展示を実施している点は評価できる。今後は、これらの展示に関心ある方々に伝える方法の検討をすすめ、展示をご覧になる方を増やして欲しい。 ・著作権の関係もあり、問題を克服するのは難しいと思うが、展示したポスターを図書館のホームページ上で見ることができるよう交渉してもらいたい。 ・アジア映画ポスター資料展示の効果は大きく、計画は進んでいる。著作権問題をクリアして期間限定でもホームページ上に載せられるとさらに反響があると考えられる。検討を望む。 ・資料展示等の充実は市民に対するサービスとして有意義であると思い評価した。 					<p>A : 4</p> <p>B : 1</p> <p>C : 0</p> <p>D : 0</p>

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	総合図書館の特色を生かした図書館	項目	文書資料部門の充実	
内容	文書資料のデジタルデータ化・情報提供の充実			
事業計画	文書資料(歴史的公文書・行政資料・古文書資料・郷土資料)のデジタルデータ化・活用を進めるとともに、文学情報提供システムを拡張することにより、文書資料の情報提供システムを構築し、文書資料への理解と利用の促進を図ります。			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	デジタルデータ化・活用の推進			
	デジタルデータの作成・蓄積, ホームページ掲載・展示・市民提供等			
	文書資料情報提供システムの構築(文学情報提供システムの拡張)			
	検討	システムの拡張・情報提供		
令和元年度				
計画	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、デジタルデータ掲載に向けたホームページの改修について館内で協議を行いながら作業を実施する。 ○歴史的公文書に係る展示をデジタルデータ化した資料を活用して定期的に行い、公文書館活動について普及啓発を図る。 			
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタルデータ掲載に向けたホームページの改修について協議・検討を実施したが、提供できるコンテンツが少ないこともあり、あまり進展しなかった。 ○「懐かしの平和台野球場」をテーマに歴史的公文書の展示を行い、一部資料をデジタルデータ化して展示(PCで閲覧等)するとともに、展示概要のしおりをホームページで公開した。(入場者数計4,876人) 			
令和2年度				
計画	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、デジタルデータ掲載によるホームページのコンテンツ充実を図る。 ○歴史的公文書に係る展示をデジタルデータ化した資料を活用して定期的に行い、公文書館活動について普及啓発を図る。 			
内部評価 (令和元年度)				
<ul style="list-style-type: none"> ○歴史的公文書展示の入場者は増加している。デジタルデータ化した資料の展示により、内容充実及び理解促進が図られ、当館の公文書機能についてアピールできた。 ○デジタルデータ掲載に向けたホームページの改修についての協議・検討については、あまり進展しなかった。 <p>以上のことから、B評価とする。</p>				B
外部評価 (令和元年度)				
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的公文書の企画展示やそのデジタルデータ化など、工夫がみられる。また、歴史的公文書展示の入場者が増加している点も評価できる。デジタルデータ掲載に関しては、急がず、計画的にじっくり取り組めばよいと考える。また、大学等と連携して、研究費などでのデジタル化を進める手法も検討してはどうか。 ・デジタル化の継続をお願いしたい。 ・デジタルデータ化は予算がかかる。行政からの予算の増額がないと実現できない。 ・デジタルデータ掲載に向けて、市民が利用しやすいホームページの改修に取り組むことを望む。 ・歴史文書のデータ化の取り組み、展示等を今後更なる充実化を期待して評価した。 				A : 2 B : 3 C : 0 D : 0

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	総合図書館の特色を生かした図書館	項目	文書資料部門の充実	
内容	文学館の利用拡大			
事業計画	市民に認知され、利用しやすい文学館となるよう、事業の充実及び情報提供の強化による利用拡大を図ります。また、インターネットによる福岡ゆかりの文学情報提供システムを新たに構築します。			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	総合図書館HP等での情報提供の充実			
	企画展、常設展、文学講座等の情報提供の充実			
	企画展の開催、広報強化			
	企画展開催・報道機関等による広報強化			
福岡ゆかりの文学情報提供システムの構築				
構築				
情報提供				
令和元年度				
計画	<ul style="list-style-type: none"> ○文学館事業として以下の事業を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・企画展 11月～12月 テーマ「久保猪之吉とより江」、会場：総合図書館ギャラリー ・企画展開催期間以外は、常設展示を開設 ・赤煉瓦夜話、読書講座等の文学講座、企画展関連講演会 ○引き続き「福岡ミュージアムウィーク」に参加し、文学館の認知度アップを図る。 			
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○文学館事業として以下の事業を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・企画展「草紅葉ー久保猪之吉とより江」R元:11.8(金)～12.15(日) 入場者数3,269人 ・ギャラリー常設展「文芸雑誌の歩みー1950年まで」 ・ももちはま草紙(赤煉瓦夜話から改題)、企画展関連講演会、共催事業の文学講座 12回 延べ参加者数439人 ・文学館ホームページにて文学情報提供システムデータベースを構築し、4,275件の提供を開始した。 ○「福岡ミュージアムウィーク」に参加して、期間中に定例文学講座を開催し文学館の認知度アップを図った。参加者数96人 			
令和2年度				
計画	<ul style="list-style-type: none"> ○文学館事業として以下の事業を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、企画展は令和2年度は開催せず、令和3年度に「夏樹静子の書齋」をテーマに開催する事とし、そのための図録作成等準備を実施。 ・また、常設展示は企画展を開催しない分、展示替えを実施して開設 ・引き続き文学情報提供システムデータベースの拡充を図る。 ・「福岡ミュージアムウィーク」は令和2年度は中止だが、ももちはま草紙、読書講座等の文学講座など、新型コロナウイルス感染予防を徹底しながら文学館の認知度アップを図る。 			
内部評価 (令和元年度)				
<ul style="list-style-type: none"> ○「福岡ミュージアムウィーク」に参加し、認知度アップを図ることができた。 ○企画展入場者数、文学講座等参加者は昨年度より増加したが、図録販売数は昨年度より減少した。(H30:764人、260人、311冊→R元:3,269人、439人、273冊) ○企画展について、新聞社に働きかけを行い2社の紹介記事が掲載された。また、CATV放送に展示担当者が出演し、企画展の紹介を実施した。 ○文学情報提供システムデータベースを構築し4,275件の提供を開始したが、著作権上の取り扱いで公開に至らないものがあるなど、一部内容が不十分だった。 			B	
外部評価 (令和元年度)				
<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな企画展示や文学講座を行っており、評価できる。今後は、コロナ禍対応の展示や講座のやり方を検討し、安全第一での開催方法を確立して実行してほしい。なお、文学情報提供システムのデータベースの構築と提供開始も評価できる。著作権等の課題のクリアが必要な点もあるが、引き続き地道に進展させてほしい。 ・なかなか大変な課題である。実利用者とWEB上の利用者の合計で考えるような計画を立ててほしい。 ・令和3年開催予定「夏樹静子の書齋」企画展やももちはま草紙、文学講座などの開催は評価できる。レイアウトや広報に更なる工夫をしての実施が望まれる。 ・企画展示の入場者数の増加やマスコミへの紹介等を評価した。 			A : 2 B : 3 C : 0 D : 0	

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	効率的で効果的な図書館運営	項目	図書館運営の強化		
内容	運営方法の検討				
事業計画	現在指定管理制度を導入している総合図書館および東図書館の成果を検証し、図書館の運営方法を検討します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	モニタリング実施・検証	公募選定	総合(建物管理のみ)、東(運営)		
	運営方法検討・決定	開館準備		早良南(仮称)	
令和元年度					
計画	現在指定管理制度を導入している総合図書館及び東図書館の成果を検証し、令和3年11月に開館予定の早良南図書館の運営方法を検討する。				
取組状況	総合図書館及び東図書館の令和元年度までのモニタリング結果等をもとに検証を行い、総合図書館(施設管理)及び東図書館の指定管理者者による管理を継続することとしたほか、早良南図書館については指定管理者制度を導入することを決定した。				
令和2年度					
計画	運営方法として決定した指定管理者による管理に向け、必要な手続きを進める。				
内部評価 (令和元年度)					
計画どおり検証を行い、運営方法を検討したため、A評価とする。					A
外部評価 (令和元年度)					
<ul style="list-style-type: none"> ・総合図書館や東図書館の指定管理による運営がうまくいっているようでよいが、しっかりとした検証を行い、令和2年度の公募選定を進めてもらいたい。 ・東図書館での実績(一部アンケートでの批判はあるが)を評価したい。 ・他の市町村でも指定管理者制度の導入は評価が大きく分かれている。今後も検討、評価を重ね、慎重に進めてほしい。 ・指定管理者制度のモニタリングの実施や今後の事業計画に沿って、しっかり事業が進められている。 					A : 5 B : 0 C : 0 D : 0

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	効率的で効果的な図書館運営	項目	図書館運営の強化		
内容	図書館ボランティアとの共働の推進				
事業計画	図書館サービスの充実と市民活動の場の提供を図るため図書館ボランティアとの共働を推進します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	活動内容の追加・実施				
令和元年度					
計画	新規ボランティアの受け入れを継続して行い、図書館ボランティアとの共働を図る。				
取組状況	20人の新規受け入れを行い、合計66人のボランティアと共働で書架整理や図書資料の修繕等を行った。				
令和2年度					
計画	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、新規ボランティアの受け入れは困難であり、現在登録しているボランティアを継続して受け入れ、図書館ボランティアとの共働を図る。				
内部評価（令和元年度）					
ボランティアと共働で書架整理や図書資料の修繕等を行うとともに、図書館イベント等の情報提供を行い、ボランティアの積極的な参加を図るなど、予定どおり実施しているためA評価とする。					A
外部評価（令和元年度）					
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館ボランティアの人数も増えているようで、共働が進んでいる点は評価できる。ただし、ボランティアはあくまでも労働ではない点を再度認識し、仕事内容や待遇などを十二分に検討する必要がある。なお、「図書館の応援団・コアなファン・コアな利用者」との相互信頼に基づく緩やかな関係性を構築し、SNS等を通じた情報発信などでの共業を進めることも検討してほしい。 ・ネット配信などのボランティアを募集して共働する形を指向してほしい。 ・職種を選べるボランティア募集を行っていることは評価できる。今後も市民が得意な分野を活かしてボランティア活動に協力してもらえる活動の提供を望む。 ・ボランティアの受け入れや共働等、市民活動の場の提供がしっかりとされている。 					A : 4 B : 1 C : 0 D : 0

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	効率的で効果的な図書館運営	項目	図書館運営の強化		
内容	職員の育成及び技術向上				
事業計画	利用者が心地よいと感じる図書館となるよう、図書館職員の接遇研修等を強化します。また、図書館職員として専門知識や技術の向上を目指し、各種研修を実施し、研修成果の情報共有を図ることで、図書館サービスの向上と充実を図ります。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	研修等の強化(分館での研修の充実)				
令和元年度					
計画	<p>全体研修については、利用者サービスの向上を目的に、福岡市職員、図書館職員としての資質を高める研修を、年間を通して計画的に実施していく。</p> <p>専門研修については、研究集会や県立図書館の研修等へ職員を派遣するとともに、高齢者問題や子育て等の市民生活に密着したテーマに関する研修を引き続き実施する。また、レファレンスや資料保存、著作権等に関する国立国会図書館のインターネットによる遠隔研修の受講を奨励し、各分館を含めた職員の専門知識習得に努める。</p>				
取組状況	<p>全体研修については、認知症サポーター養成講座や著作権講座等の職員の資質を高める研修の実施や、避難訓練等の防災研修など6回実施した。</p> <p>専門研修については、研究集会や県立図書館の研修等へ職員を派遣(延47人)した。</p> <p>また、著作権や資料保存等に関する国立国会図書館のインターネットによる遠隔研修を取り入れ、各分館を含めた職員の専門知識習得を奨励した。</p>				
令和2年度					
計画	<p>今年度は職員が一同に集まったの全体研修を制限し、必要最小人数での福岡市職員、図書館職員としての資質を高める研修を、年間を通して計画的に実施していく。</p> <p>専門研修については、外部研修の実施は可能性が低く、派遣も見合わせる必要があるため、レファレンスや資料保存、著作権等に関する国立国会図書館のインターネットによる遠隔研修の受講を主に奨励し、各分館を含めた職員の専門知識習得に努める。</p>				
内部評価 (令和元年度)					
予定どおり実施しているためA評価とする。					A
外部評価 (令和元年度)					
<ul style="list-style-type: none"> ・質の高い図書館運営には、モチベーションの高い専門性を持ったスタッフが不可欠であり、そのためには研修は重要な機会である。今年度は、コロナ禍でリモート研修の類が増加してくるとみられ、スタッフの参加がしやすくなる可能性がある。その機をうまく活用して、研修の充実を図ってほしい。 ・専門主題(印刷媒体/電子媒体)の研修を組み込んでもらいたい。自己研鑽についても考えてほしい。その力が利用者の情報ニーズに応えることにつながる。 ・レベル向上への取り組みは評価できる。あらゆる課題解決の支援のためには、さらに専門的な研修を経て、スペシャリストを育てていくことの必要性を感じる。 ・予定の研修が実施済みとのことと実際の職員の方達のレベルの高さ等を高く評価した。 					A : 3 B : 2 C : 0 D : 0

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	効率的で効果的な図書館運営	項目	図書館運営の強化		
内容	施設の有効活用などによる財源確保				
事業計画	駐車場収入による財源確保に努めるとともに、寄付金収入等の増額方法について検討します。 また、デジタルサイネージや施設広告、施設の目的外利用等について、新たな収入確保を検討します。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	駐車場収入による財源確保				
	新たな他財源の検討	その他財源の確保			
令和元年度					
計画	駐車場の適切な運営や寄付金制度のPRに努めていくとともに、新たな財源確保を検討する。				
取組状況	総合図書館駐車場を図書館利用者以外にも有料開放し、駐車場の誘導警備員を増員し渋滞緩和による効率的な活用を図るなど年間で約600万円の収入を確保するとともに、「ふくおか応援寄付」制度についてホームページや図書館本館、分館でのポスター掲示やパンフレットの配布等によりPRを行い、図書購入のための寄付金18万7千円をいただいた。				
令和2年度					
計画	駐車場の適切な運営や寄付金制度のPRに努めていくとともに、その他財源確保における手法等について、検討を行う。				
内部評価 (令和元年度)					
財源確保につながる取り組みを進め、渋滞緩和対策など適切な運営を行った結果、前年度と比べ駐車場収入は約100万円増、寄付金は約4万円増となったが、新たな他財源の検討については、着手するも引き続き検討が必要なため、B評価とする。					B
外部評価 (令和元年度)					
・駐車場の有効活用や寄付金の募集などで効果を上げている点は評価できるが、さらに新しい財源の確保について幅広く検討し、実施していくことが求められる。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、経済状況が悪いところであるが、何らかの財源確保に努めてもらいたい。 ・財源確保は難しい課題であるが、引き続き、確保の手法を模索、検討してほしい。 ・駐車場収入の増加、寄付金の増加を評価した。					A : 1 B : 4 C : 0 D : 0

令和元年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	効率的で効果的な図書館運営	項目	情報発信の推進		
内容	情報発信の推進				
事業計画	引き続き、インターネット等を活用した情報発信に努めるとともに、新聞やミニコミ誌などのメディアへの働きかけを進めます。				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	検討	実施			
令和元年度					
計画	ホームページやSNS、新聞等の媒体を通して、効率的で効果的な情報発信を行う。				
取組状況	<p>図書館の開館情報やイベント情報をホームページやSNSを通して周知した。また、市報道部門を通し、又は直接資料提供等を行い、新聞やフリーペーパー等に掲載依頼するなど情報発信に努めた(市報道部門を通した新聞・報道機関への資料提供数20件(これに対し報道又は掲載件数45件))。</p> <p>媒体ごとの登録者増加率(前年度比)は、フェイスブック35%増(191件→258件)、ツイッター93%増(429件→828件)、メルマガ38%増(344件→476件)、LINE15%増(2,837件→3,263件)となっている。</p>				
令和2年度					
計画	引き続き、ホームページやSNS、新聞等の媒体を通して、効率的で効果的な情報発信を行う。				
内部評価 (令和元年度)					
計画通り実施し、各媒体を通して情報発信を行い、また登録者数も増加しているため、A評価とする。					A
外部評価 (令和元年度)					
<ul style="list-style-type: none"> ・SNSやメルマガなどの各種メディアの登録が着実に増加している点は高く評価できる。コロナ禍のなかで、利用者との相互関係を構築するために、SNS等での繋がりの幅を広め、深めることは重要であり、今年度は、SNS等を活用した情報発信と、これらのメディアへの登録拡大に向けた取り組みに特に注力して取り組んでほしい。 ・OPACの改善(本の表紙+目次+書評+利用者のコメント)を取込むのではなく、リンクを貼ることで実現してもらいたい。 ・図書館のホームページ上から、さまざまな情報源へのアクセスができる工夫をしてもらいたい。 ・インターネットなどを活用した情報の発信、メディアへの働きかけなどの取り組みは評価でき、継続して進めてほしい。一方、図書館の利用の減少傾向は変化していないため、更なる工夫を望む。 ・計画の実施状況及びSNSの確実な増加を評価した。 					A : 3 B : 2 C : 0 D : 0

総合図書館における新型コロナウイルス感染拡大防止対策

1 現在の取り組み

区分	総合図書館本館	図書館分館
密閉対策	外気の強制吸排気の実施	定期的な窓開放等
密集対策	学習室, パソコンルーム等の利用休止	
	長時間滞在に対する注意喚起ポスターの掲示	長時間滞在に対する注意喚起ポスターの掲示
密接対策	閲覧席の間引き (例: 4人掛け閲覧機の椅子を2脚間引きして2人利用)	閲覧席の間引き (例: 4人掛け閲覧機の椅子を2脚間引きして2人利用)
	映像ホール・シネラの観覧席の間引き (246席→100席)	
	ミニシアターの観覧席の間引き (50席→25席)	
	窓口等の列間隔確保表示 (床に2m空けた待機場所の表示)	窓口等の列間隔確保表示 (床に2m空けた待機場所の表示)
感染防止対策	窓口のビニールシールド設置	窓口のビニールシールド設置
	図書館入口に手指消毒液の設置	図書館入口に手指消毒液の設置
	図書エリア入口BDS前にサーモグラフィを設置	
	マスク着用の注意喚起ポスターの掲示	マスク着用の注意喚起ポスターの掲示
	窓口従事職員のビニール手袋, フェイスガードの着用	窓口従事職員のビニール手袋, フェイスガードの着用
	返却された本の排架待機 (1日程度の排架待機によるウイルス不活性化)	返却された本の排架待機 (1日程度の排架待機によるウイルス不活性化)
	利用者が利用する端末や手すり, ドアノブ等を定期的に消毒 (2時間ごと)	利用者が利用する端末や手すり, ドアノブ等を定期的に消毒

2 新型コロナウイルスに対応した動き

日付	総合図書館本館	図書館分館	備考
2/21～	お話し会等の主催事業、映像ホールの上映休止	お話し会等の主催事業中止	
2/27～ 3/20	臨時休館(23日間)	通常開館	本館での予約本の受取のみ実施
3/21～ 4/3	通常開館	通常開館	学習室等の利用休止、閲覧席の間引き等を実施
4/4～ 5/25	臨時休館(52日間)	臨時休館(52日間)	5/16～5/24は本館、分館とも予約本の受取のみ実施
5/26～ 6/2	開館（開館時間短縮 20時→18時）	開館（東のみ開館時間短縮 20時→18時）	学習室等の利用休止 閲覧席の全面利用休止
6/3～ 6/8	開館（開館時間短縮 20時→18時）	開館（東のみ開館時間短縮 20時→18時）	学習室等の利用休止 閲覧席間引き
6/9～	通常開館	通常開館	学習室等の利用休止 閲覧席間引き
6/17～	映像ホール・シネラ 上映開始		観覧席間引き (246席→50席)
7/15～ 10/20	映像ホール・シネラ 観客席数の増		観覧席間引き (246席→70席)
8/2～	ミニシアター 上映開始		観覧席間引き (50席→25席)
10/21～	映像ホール・シネラ 観客席数の増		観覧席間引き (246席→100席)

3 総合図書館の入館者数状況

区分	入館者数	1日当たり 人数	前年同時期	1日当たり 人数	前年との比較 (1日当たり)
5/26(火)～5/31(日)	8,515人	1,419人	18,476人	3,079人	△53.9%
6/3(水)～6/28(日)	34,701人	1,509人	65,903人	3,295人	△54.2%
7/1(水)～7/30(木)	45,034人	1,732人	71,819人	2,873人	△39.7%
8/1(土)～8/30(日)	50,144人	1,929人	81,987人	3,037人	△36.5%
9/2(水)～9/29(火)	42,465人	1,769人	72,236人	3,010人	△41.2%

電子図書館について

1 電子図書館について

新型コロナウイルスの感染防止を見据えて、来館不要で24時間365日、利用者が所有する電子機器で電子書籍を検索・予約・貸出できるサービスを開始する(令和3年2～3月予定)。

現在の図書館業務を活用した、図書館ホームページから電子書籍を検索・予約し、個々の利用者が所有する電子端末と専用クラウドとオンラインで接続して閲覧する。

総合図書館で貸出閲覧できる電子書籍の数や分野等については、現在検討中。

2 電子図書館の特徴

(1)主なメリット

- ① 利用者登録(図書館利用者カード未所持者は来館による登録が必要)をすることで、図書館へ来館せずに電子図書館に登録された電子書籍を利用することが可能。
- ② 音声読み上げや文字の拡大ができたり、子ども向けの動く絵本などの電子書籍(コンテンツ)があり、障がい者や高齢者、子どもに優しいサービスが可能。
- ③ 返却期限が到来すると、自動的に閲覧コンテンツが見られなくなる。(紙の図書と異なり、貸出延滞が発生しない。)

(2)主なデメリット

- ① 紙の図書と同様に、コンテンツ1件につき1利用者しか閲覧ができない。
- ② 紙の図書と比較して、コンテンツ利用権が高額。
- ③ 図書館用に開放されたコンテンツが少ない。

3 電子図書館の利用方法

- (1) 図書館貸出カードを作成し、インターネット蔵書検索・予約システム利用のパスワードを登録。
- (2) PC・スマホから蔵書検索・予約システムにて検索し、電子書籍が該当する場合は電子書籍専用サイトへのリンクが表示される。
- (3) 専用サイトから「予約」、「借りる」もしくは「読む」を押し「読む」場合はビューワが自動で立ち上がり閲覧可能となる(利用者は専用アプリのダウンロードは不要)。

福岡市総合図書館運営審議会委員名簿

任期：令和2年7月9日から令和4年7月8日まで

委嘱区分	氏名	役職名
学校教育 関係者	西川 秋生	福岡市立香椎浜小学校校長
	松下 誠	福岡市立住吉小中学校校長
	渡邊 由紀子	九州大学附属図書館 学術サポート課長
社会教育 関係者	国広 奈穂子	福岡市七区男女共同参画協議会代表
	萩尾 憲子	福岡市公民館館長会 副会長
	上村 篤子	福岡市社会教育委員
家庭教育 関係者	松原 明子	福岡市PTA協議会 副会長
読書活動 団体関係者	香川 純子	福岡おはなしの会代表
学識 経験者	高橋 昇	九州女子大学 名誉教授
	白根 恵子	佐賀女子短期大学 名誉教授
	脇川 郁也	福岡県詩人会代表幹事
	脇山 真治	九州大学 名誉教授
本市の 住民	森 望	公募委員
	宮本 直嗣	公募委員